SYBASE
An SAP Company

インストール・ガイド

Replication Agent™ 15.7.1

Linux、Microsoft Windows、UNIX 版

ドキュメント ID： DC01653-01-1571-01
改訂： 2012 年 5 月
Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.
このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎりは、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。
アップグレードは、ソフトウェア・リリースの所定の日時に定期的に提供されます。このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。
Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (http://www.sybase.com/detail?id=1011207) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。
このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。
Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。
Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。
このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。
Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.
Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

表記の規則 1
複写システムのコンポーネント 3
インストールの計画 5
Replication Server Options リリース・ノート 6
ライセンス 6
RSO 15.7.1 インストール時の Replication Agent のライセンス 6
RSHE 15.7.1 インストール時の Replication Agent のライセンス 8
RTLE 15.7.1 インストール時の Replication Agent のライセンス 8
SySAM ライセンス・サーバ 8
サブキャパシティ・ライセンス 10
システムの稼働条件 11
データベース・サーバ 11
プライマリ・データベースのコネクティビティ 12
Java Runtime Environment 15
プラットフォームとオペレーティング・システム 16
メモリ、ディスク領域、メディア・デバイス 17
Replication Agent システム・データベース 18
インストール・プログラムの要件 18
GUI およびコンソール・モードのインストール 18
ホーム・ディレクトリ・アクセス 19
Visual C++ 2005 ランタイム・コンポーネント 19

Replication Agent 15.7.1 インストール・ディレクトリ 19
チーム・スキルの要件 20
インストールおよび設定ワークシートの記入 21
セクション 1：Replication Agent 管理情報の記入 21
セクション 2：プライマリ・データベース・コネクションの Replication Server パラメータ値の記入 22
セクション 3：Replication Server の Replication Agent パラメータ値の記入 23
セクション 4：ERSSD または RSSD の Replication Agent パラメータ値の記入 25
セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値の記入 26
セクション 6：レプリケート・データ・サーバの Replication Server パラメータ値の記入 28
インストールおよび設定ワークシート 29
Replication Agent のインストール 39
インストール・プログラムのコマンド・ライン・オプション 39
デバッグ情報の表示 40
GUI ウィザードによる Replication Agent のインストール 41
コンソール・モードでの Replication Agent のインストール 44
応答ファイルを使用したインストール 45
応答ファイルの作成 45
インストール後の作業 48
SYBASE 環境変数の設定 48
インストールの確認 49
追加作業 49

アンインストール 50
Microsoft Windows プラットフォームでのアンインストール 51
Microsoft Windows プラットフォームでの GUI モードを使用したアンインストール 51
Microsoft Windows プラットフォームでのコンソール・モードを使用したアンインストール 52
Microsoft Windows プラットフォームでのサイレント・モードを使用したアンインストール 52
UNIX プラットフォームでのアンインストール 52
UNIX プラットフォームでの GUI モードを使用したアンインストール 53
UNIX プラットフォームでのコンソール・モードを使用したアンインストール 53
UNIX プラットフォームでのサイレント・モードを使用したアンインストール 54
追加の説明や情報の入手 54
サポート・センタ 55
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード 55
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認 55
MySybase プロファイルの作成 56
アクセシビリティ機能 56
用語解説 57
索引 67

表記の規則

ここでは、Sybase® マニュアルで使用しているスタイルおよび構文の表記規則について説明します。

表記の規則

構文要素	定義
等幅 (固定幅)	• SQL およびプログラム・コード • 表示されたとおりに入力する必要のあるコマンド • ファイル名 • ディレクトリ名
斜体等幅	SQL またはプログラム・コードのスニペット内では、ユーザ指定の値のプレースホルダ (以下の例を参照)
italic	• ファイルおよび変数の名前 • 他のトピックまたはマニュアルとの相互参照 • 本文中では、ユーザ指定の値のプレースホルダ (以下の例を参照) • 用語解説に含まれているテキスト内の用語
bold sans serif	• コマンド、関数、ストアド・プロシージャ、ユーティリティ、クラス、メソッドの名前 • 用語解説のエントリ (用語解説内) • メニュー・オプションのパス • 番号付きの作業または手順内では、クリックの対象となるボタン、チェック・ボックス、アイコンなどのユーザ・インタフェース (UI) 要素

必要に応じて、プレースホルダ (システムまたは設定固有の値) の説明が本文中に追加されます。次に例を示す。

次のコマンドを実行します。

```
installation directory¥start.bat
```

installation directory はアプリケーションがインストールされた場所です。

構文の表記規則

構文要素	定義
{ }	中カッコで囲まれたオプションの中から必ず 1 つ以上を選択する。コマンドには中カッコは入力しない。
[ ]	角カッコは、オプションを選択しても省略してもよいことを意味する。コマンドには角カッコは入力しない。
( )	このカッコはコマンドの一部として入力する。
|	縦線はオプションのうち 1 つのみを選択できることを意味する。
,	カンマは、表示されているオプションを必要な数だけ選択でき、選択したものをコマンドの一部として入力するときにカンマで区切ることを意味する。
...	省略記号 (...) は、直前の要素を必要な回数だけ繰り返し指定できることを意味する。省略記号はコマンドには入力しない。

大文字と小文字の区別

- すべてのコマンド構文およびコマンドの例は、小文字で表記しています。ただし、複写コマンド名では、大文字と小文字が区別されません。たとえば、**RA_CONFIG**、**Ra_Config**、**ra_config** は、すべて同じです。
- 設定パラメータの名前では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、**Scan_Sleep_Max** は、**scan_sleep_max** とは異なり、パラメータ名としては無効になります。
- データベース・オブジェクト名は、複写コマンド内では、大文字と小文字が区別されません。ただし、複写コマンドで大文字と小文字が混在したオブジェクト名を使用する場合 (プライマリ・データベースの大文字と小文字が混在したオブジェクト名と一致させる場合)、二重引用符でオブジェクト名を区切ります。例： **pdb_get_tables** "*TableName*"

用語

Replication Agent™ は、Adaptive Server® Enterprise、Oracle、IBM DB2 UDB、Microsoft SQL Server 用の Replication Agent を表現するために使用される一般的な用語です。具体的な名前は、次のとおりです。

- Replication Agent for Oracle
- Replication Agent for Microsoft SQL Server
- Replication Agent for UDB － Linux、UNIX、Windows 用の IBM DB2

複写システムのコンポーネント

Replication Agent ソフトウェアのインストールは、複写システムの設定の一部でしかありません。

表 1 : Sybase 複写システムの設定

目的	参照先
プライマリ・データ・サーバをインストールする。	• プライマリ・データ・サーバのマニュアル • プライマリ・データ・サーバのベンダのマニュアルまたは Web サイト
プライマリ・データベース・サーバ用コネクティビティ・ドライバをインストールする。	• 「プライマリ・データベースのコネクティビティ」 • プライマリ・データ・サーバのベンダのマニュアルまたは Web サイト
Replication Server® をインストールしてコネクションを作成する。 これには次の操作が含まれる。 • 複写システムの設計 • Replication Server のインストール • Replication Server から Embedded Replication Server システム・データベース (ERSSD) へのコネクションと Replication Server 間のルートの定義 • Sybase 以外のデータベースへの複写時の ECDA を使用したコネクションの定義 **注意：** Replication Agent for Oracle では ExpressConnect for Oracle を使用できます。その場合、ECDA のインストールと設定は不要です。『ExpressConnect for Oracle Installation and Configuration Guide』を参照してください。	• Replication Server のマニュアル • ECDA のマニュアル • 『ExpressConnect for Oracle Installation and Configuration Guide』

目的	参照先
Replication Agent のインストール準備を行う。 • Replication Agent のインストール要件とインストール手順を確認する • 「インストールおよび設定ワークシート」に記入する	• このマニュアルの「インストールの計画」、およびReplication Agent Administration GuideのChapter 2, “Setting Up and Configuring Replication Agent” • 『Replication Server Options リリース・ノート』
Replication Agent ソフトウェアをインストールする。	「Replication Agent のインストール」
Replication Server とプライマリ・データ・サーバのコネクションを設定する。 これには次の操作が含まれる。 • Replication Server データベースからプライマリ・データ・サーバへのコネクションの作成 • Replication Agent インスタンスへの Replication Server ログインの作成 • Replication Agent パラメータの設定 • Replication Agent とプライマリ Replication Server 間のコネクション、および Replication Agent とプライマリ・データ・サーバ間のコネクションのテスト	Replication Agent Administration GuideのChapter 3, “Administering Replication Agent”
Replication Agent のインスタンスを設定する。 これには次の操作が含まれる。 • Replication Agent トランザクション・ログ・オブジェクトの作成 • 複写するプライマリ・オブジェクトのマーク付け	Replication Agent Administration GuideのChapter 2, “Setting Up and Configuring Replication Agent”
複写システムのすべてのコンポーネントが揃っていることを確認する。	Replication Agent Administration GuideのChapter 2, “Setting Up and Configuring Replication Agent”
(オプション) Replication Agent に付属のテスト・スクリプトを使用してテスト環境を設定し、プライマリ・データベースからレプリケート・データベースへの複写を確認する。	Replication Agent Primary Database Guideのプライマリ・データ・サーバに関する章

目的	参照先
サブスクリプションをプライマリ・データにマテリアライズする。 サブスクリプションごとに、マテリアライゼーションで次のことを行う。 • サブスクリプションを確定化し、アクティブ化する • 複写の開始前にレプリケート・データベースがプライマリ・データベースと同期するように、レプリケート・データベースにテーブルを入力する	• Replication Server のマニュアル • Replication Agent Administration GuideのAppendix A, “Materializing Subscriptions to Primary Data”
複写を開始するには、Replication Agent のインスタンスを*複写*モードにします。	Replication Agent Administration GuideのChapter 2, “Setting Up and Configuring Replication Agent”

サンプル複写システムをインストールして設定するには、『Replication Server Options Quick Start Guide』を参照してください。

インストールの計画

インストールまたはアップグレード前に、環境を準備します。

注意： このマニュアルでは、特に区別する必要がある場合を除いて、Linux は UNIX プラットフォームとして扱っています。

1. 『Replication Server Options リリース・ノート』を読んでください。
2. ライセンスを取得します。

   注意： サーブド・ライセンスを使用する場合は、SySAM ライセンス・サーバ・バージョン 2.1 以降をインストールする必要があります。
3. システムのすべての稼働条件がインストール・シナリオおよび用途に一致していることを確認します。
4. 「インストールおよび設定ワークシート」に記入します。

Replication Server Options リリース・ノート

『リリース・ノート』には、Replication Agent の特定の要件に関する次のような最新情報が含まれています。

- 既知の問題やマニュアルの更新など、Replication Agent の操作ガイドに含まれていない可能性のある製品情報。
- Replication Agent のインストールと設定に関する情報のうち、ソフトウェアとマニュアルのリリース後に公開された追加情報。

注意： Replication Agent をアップグレードまたはダウングレードする場合は、『Replication Agent プライマリ・データベース・ガイド』のデータベースに固有の情報を参照してください。

ライセンス

Replication Agent は、Replication Server Options (RSO) 15.7.1、Replication Server Heterogeneous Edition (RSHE) 15.7.1、または Real-Time Loading Edition (RTLE) 15.7.1 のインストールの一部としてインストールできます。ライセンスは、インストールする製品によって異なります。

RSO 15.7.1 インストール時の Replication Agent のライセンス

RSO の一部として Replication Agent をインストールする前に、SySAM ライセンス・モデルを選択し、ライセンス・サーバ情報を決定し、ライセンス・ファイルを取得します。

1. 使用する SySAM ライセンス・モデルを決定します。
   - アンサーブド・ライセンス・モデル。これは、ライセンス・ファイルからライセンスを直接取得します。アンサーブド・ライセンスを使用するには、Sybase 製品をインストールするマシンにライセンスを保存する必要があります。
   - サーブド・ライセンス・モデル。これは、複数マシンに対するライセンスの割り当てをライセンス・サーバを使用して管理します。
2. サーブド・ライセンス・モデルを選択する場合、既存のライセンス・サーバを使用するか、新しいライセンス・サーバを使用するかを決定してください。

   ライセンス・サーバと製品は、インストールするマシン、オペレーティング・システム、またはアーキテクチャが同じである必要はありません。
3. サーブド・ライセンス・モデルを選択した場合は、次のいずれかの操作を行います。

- 既存のライセンス・サーバがないマシンに新しいライセンス・サーバをインストールします。
- SySAM 1.0 ライセンス・サーバを実行しているマシンに製品をインストールする場合、『SySAM ユーザーズ・ガイド』のマイグレーションの指示に従い、新しい SySAM バージョンにマイグレートします。

注意： 指定したマシンに、実行している SySAM ライセンス・サーバのインスタンスが 1 つしかない場合もあります。すでに SySAM 1.0 ライセンス・サーバを実行しているマシンで SySAM 2.0 ライセンス・サーバをセットアップするには、古いライセンス・サーバを SySAM 2 にマイグレートする必要があります。マイグレートされたライセンス・サーバは、SySAM 1.0 に対する製品と SySAM 2 に対する製品の両方にライセンスを提供できます。

4. ホスト ID を取得します。

Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) でライセンスを生成するときに、ライセンスを配備するマシンのホスト ID を指定する必要があります。

- アンサーブド・ライセンスの場合 – 製品を実行するマシンのホスト ID。SySAM サブキャパシティをサポートする製品を、CPU ごとまたはチップごとのライセンスで実行していて、その製品を仮想化環境で実行する場合は、『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティ・ライセンス」を参照してください。
- サーブド・ライセンスの場合 — ライセンス・サーバを実行するマシンのホスト ID。

5. Sybase または Sybase 認定販売店から入手した SPDC アクセス情報を使用して、SPDC (https://sybase.subscribenet.com) からライセンス・ファイルを取得してから、製品をインストールします。

SPDC の Welcome メールの情報を使用して、SPDC にログインしてください。

注意： Sybase ソフトウェアを Sybase 認定販売店から購入された場合は、電子メール・メッセージではなく Web キーが送付される場合があります。

サブキャパシティ・ライセンスを使用する予定がある場合は、**sysamcap** ユーティリティを使用するための設定方法について『SySAM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

SySAM ライセンスの詳細については、『SySAM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

RSHE 15.7.1 インストール時の Replication Agent のライセンス

RSHE の一部として Replication Agent をインストールする場合は、静的ライセンスを使用します。

RSHE では、Replication Agent のすべてのオプション (Replication Agent for Oracle、Replication Agent for Microsoft SQL Server、Replication Agent for UDB) が含まれており、静的にライセンスされます。

1. RSHE 15.7.1 の Replication Agent コンポーネントの有効な SySAM ライセンスが含まれているライセンス・ファイルを見つけます。
2. インストール・プログラムが要求したときに、このライセンス・ファイルを指定します。

RTLE 15.7.1 インストール時の Replication Agent のライセンス

RTLE の一部として Replication Agent をインストールする場合は、静的ライセンスを使用します。

RTLE には、Replication Agent for Oracle オプションのみが含まれており、静的にライセンスされます。この静的ライセンスは Replication Agent for Oracle 15.7.1 用で、Replication Agent 15.7.1 でも機能します。

注意： RTLE は Replication Agent for Oracle と互換性がありますが、RSO または RSHE には含まれていない Replication Server 製品エディションです。

1. RTLE 15.7.1 の Replication Agent コンポーネントの有効な SySAM ライセンスが含まれているライセンス・ファイルを見つけます。
2. インストール・プログラムが要求したときに、このライセンス・ファイルを指定します。

SySAM ライセンス・サーバ

インストールする SySAM ライセンス・サーバのバージョンの要件について説明します。

- ライセンス・サーバのバージョン
  インストールする SySAM ライセンス・サーバは 2.1 以降である必要があります。現在のライセンス・サーバのバージョンを確認するには、**sysam version** コマンドを使用します。

  注意： バージョン 2.0 以前のライセンス・サーバでは、このコマンドは使用できません。

最新のライセンス・サーバは、SySAM ライセンス・サーバとユーティリティのインストールの Web サイト (http://www.sybase.com/sysam/server) からダウンロードしてください。

- FLEXnet Publisher のバージョン

  Replication Agent 15.5 以降は FLEXnet Publisher のバージョン (プラットフォームごとに異なります) と関連付けられています。

表 2 : UNIX および Linux プラットフォームでサポートされている FLEXnet Publisher のバージョン

プラットフォーム	FLEXnet Publisher のバージョン
HP Itanium (64 ビット版)	11.6.1
IBM AIX (64 ビット版)	11.6.1
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) (64 ビット)	11.6.1
SuSE Linux Enterprise Server (SLES) (64 ビット)	11.6.1
Solaris SPARC 8、9、10 (64 ビット版)	11.6.1
Solaris 10 x86-64 (64 ビット版)	11.6.1

注意： Replication Agent 15.6 には SySAM バージョン 2.2.0.5 が含まれています。対応する FLEXnet Publisher のバージョンは 11.6.1 に更新されています。

表 3 : Windows プラットフォームでサポートされている FLEXnet Publisher のバージョン

プラットフォーム	FLEXnet Publisher のバージョン
Windows (32 ビット版)	11.6.1

SySAM ライセンス・サーバを使用する場合は、SySAM ライセンス・サーバを少なくともバージョン 2.1 (すべてのプラットフォームの 11.6.1 FLEXnet Publisher ライセンス・サーバ・コンポーネントが含まれます) に更新してから、Replication Agent 15.6 をインストールする必要があります。ライセンス・サーバのバージョンを確認するには、ライセンス・サーバのログを調べるか、次のいずれかを行います。

- UNIX または Linux の場合は、次のコマンドを実行します。

```
cd $SYBASE/SYSAM-2_0/bin
./lmutil lmver lmgrd
```

- Windows の場合は、次のコマンドを実行します。

```
cd %SYBASE%¥SYSAM-2_0¥bin
lmutil lmver lmgrd
```

サブキャパシティ・ライセンス

サブキャパシティ・ライセンスを使用して、物理マシン、マシン・パーティション、またはリソース・パーティションにライセンスを付与できます。

Sybase ではサブキャパシティ・ライセンス・オプションを提供するようになりました。サブキャパシティ・ライセンスは、物理マシンで利用可能な CPU のサブセットに対する Sybase 製品のライセンスを意味します。

注意： サブキャパシティ・ライセンスは、静的にライセンスされる製品では使用できません。

プラットフォームのサポート

表 4 : SySAM 仮想化サブキャパシティの互換性

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
HP	nPar	HP IA 11.31	物理パーティション
	vPar		仮想パーティション
	Integrity Virtual Machines および リソース・マネージャ		仮想マシン
	セキュア・リソース・パーティション		OS コンテナ
IBM	LPAR	AIX 6.1	仮想パーティション
	dLPAR		仮想パーティション
Oracle	動的システム・ドメイン	Solaris 10	物理パーティション
	Solaris コンテナ/ゾーン および Solaris リソース・マネージャ		OS パーティション
Intel、AMD	VMWare ESX Server* ゲスト OS： Windows	VMWare ESX 3.5、ゲスト OS： Windows 2003、RH 5.3、SuSe 10	仮想マシン

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
	VMWare ESX Server ゲスト OS： Linux	VMWare ESX 3.5、ゲスト OS： Windows 2003、RH 5.3、SuSe 10	仮想マシン
	Xen、** DomainU： Windows	Windows 2003	仮想マシン
	Xen、DomainU： Linux	RH 5.3、SuSe 10	仮想マシン

* VMWare ESX Server に Solaris x64、VMWare Workstation、VMWare Server は含まれません。

** Xen に Solaris x64 は含まれません。

Sybase サブキャパシティ・ライセンスの有効化
サブキャパシティ・ライセンスを有効にするには、事前に Sybase とのサブキャパシティ・ライセンス契約が必要になります。Sybase の他のライセンスと同様に、ライセンス・キーを生成する必要があります。具体的な手順については、『SySAM クイック・スタート・ガイド』を参照してください。

注意： ライセンス・サーバを最新の状態に保ってください。

インストール・メディアには最新の SySAM ライセンス・サーバのコピーが含まれますが、SySAM スタンドアロン・ライセンス・サーバの Web サイト (http://www.sybase.com/sysam/server) で定期的にライセンス・サーバの更新をチェックすることをおすすめします。

システムの稼働条件

Replication Agent をインストールするには、Replication Agent のホスト・マシンに十分なディスク領域と RAM が必要です。また、プライマリ・データベースと Replication Server へのネットワーク・コネクティビティと、ログ・デバイスへのローカル・アクセスも必要です。

データベース・サーバ

Replication Agent は Linux、Microsoft Windows、UNIX プラットフォーム上の特定のデータベース・サーバのみをサポートします。

サポートされているデータベース・サーバは次のとおりです。

- Oracle
- Replication Agent が Microsoft Windows で実行している Microsoft SQL Server データベース
- Linux、UNIX、Windows 用 IBM DB2 Universal Database (UDB)

注意： Replication Agent でサポートされている必要なデータベース・サーバのバージョンについては、『Replication Server Options 15.7.1 リリース・ノート』を参照してください。

これらのデータ・サーバの Replication Agent の要件は次のとおりです。

- Replication Agent for Oracle は、プライマリ Oracle データ・サーバと同じ UNIX または Microsoft Windows ホストのプラットフォームにインストールしてください。pdb_archive_remove が true で rman_enabled が false の場合、Oracle ログに直接アクセスする必要があります。詳細については、『Replication Agent リファレンス・マニュアル』を参照してください。
- Replication Agent for Microsoft SQL Server は、プライマリ Microsoft SQL Server のトランザクション・ログに直接アクセスできる Microsoft Windows ホストにインストールする必要があります。
- Replication Agent for IBM DB2 Universal Database (UDB) は、UDB サーバまたは UDB Administration Client と同じ UNIX または Microsoft Windows ホストにインストールする必要があります。

Sybase Replication Agent システム環境で、次のことを確認します。

- プライマリ・データ・サーバとプライマリ・データベースがオンラインで、運用システムに正しく設定されていること。データベース・ソフトウェアのベンダから提供されるマニュアルを参照してください。
- Replication Server がインストールおよび設定されており、動作中であること。詳細については、使用しているプラットフォーム用の『Replication Server インストール・ガイド』と『Replication Server 設定ガイド』を参照してください。

プライマリ・データベースのコネクティビティ

Replication Agent は、JDBC 3.0 標準を実装する JDBC™ ドライバを使用してプライマリ・データ・サーバに接続します。

Replication Agent をインストールする前に、プライマリ・データベースの環境に適したコネクティビティ・ドライバをインストールする必要があります。Replication Agent でサポートされている必要なドライバについては、『Replication Server Options 15.7.1 リリース・ノート』のリストを参照してください。

通常、JDBC ドライバはデータベース・サーバのクライアント／サーバ製品に付属しています。正しいドライバがインストールされているかどうかについては、データベース管理者に問い合わせてください。

注意： CLASSPATH に許可されるベンダの JDBC ドライバは 1 バージョンのみです。複数のバージョンが CLASSPATH にあると、Replication Agent がプライマリ・データベースに接続できません。

DB2 UDB サーバへのコネクティビティの設定

Replication Agent for IBM DB2 Universal Database (UDB) は、プライマリ UDB サーバまたは UDB Administration Client と同じ UNIX または Microsoft Windows ホストにインストールする必要があります。Replication Agent は UDB JDBC ドライバと UDB API ライブラリにアクセスする必要があります。

注意： DB2 JDBC ドライバは事実上 JDBC/ODBC のブリッジです。プライマリ・データベースのそれぞれに、DB2 クライアント・ソフトウェアで ODBC のデータ・ソース名 (DSN) を設定する必要があります。

Replication Agent が DB2 Universal Database プライマリ・データ・サーバと同じホスト・マシンにインストールされている場合は、コネクティビティに個別の DB2 クライアントは必要ありません。

Replication Agent ホスト・マシンが DB2 Universal Database ホストと同じでない場合は、Replication Agent ホスト・マシンに DB2 管理クライアントをインストールする必要があります。

IBM 発行の『DB2 Universal Database and DB2 Connect, Installation and Configuration Supplement』を参照してください。

1. UNIX プラットフォームで DB2 クライアントをインストールする場合は、`db2cshrc` を元として必須の DB2 環境変数をすべて適切に設定します。Linux と Windows の場合のみ、DB2 のインストールが 64 ビットであれば、スクリプトをカスタマイズして 32 ビットのクライアント・ライブラリを指すようにしてください。『Replication Agent プライマリ・データベース・ガイド』を参照してください。

   Replication Agent のインスタンスを起動および停止するユーザ・アカウントの `.login` ファイルを以下に追加します。

   ```
   source /path_name/sqllib/db2cshrc
   ```

   `path_name` は、DB2 クライアントをインストールした場所です。この変更を有効にするには、変更後に再度ログインするか、コマンド **source .login** を発行します。

   注意： Microsoft Windows に DB2 クライアントをインストールする場合は、インストール・プログラムがすべての必要な環境変数を自動的に変更します。

2. (プラットフォームにかかわらず) プライマリ・データベースのそれぞれに、DB2 クライアント・ソフトウェアで ODBC のデータ・ソース名 (DSN) を設定す

る必要があります。データ・ソースの設定時には、必ず *データベース名*と *データ・ソース名*を設定してください。

次の Replication Agent 設定パラメータにデータベース名とデータ・ソース名を記入します。

- **pds_database_name** － プライマリ・データベース名
- **pds_datasource_name** － プライマリ・データベースのカタログ化したデータベース・エイリアスまたは ODBC データ・ソース名

Oracle および Microsoft SQL Server JDBC ドライバの設定

Oracle および Microsoft SQL Server データベース用の JDBC ドライバはデータベース・ベンダから提供されています。使用するデータベース用の JDBC ドライバがまだインストールされていない場合は、ベンダの Web サイトから適切なドライバを入手してください。

- Oracle JDBC ドライバの場合は、http://www.oracle.com/technetwork/indexes/downloads/index.html にアクセスします。[Drivers] まで下へスクロールして、[JDBC] をクリックします。
- Microsoft SQL Server JDBC ドライバの場合は、http://www.microsoft.com/downloads/en/default.aspx にアクセスし、「SQL Server 2005 JDBC Driver」を検索します。

1. Replication Agent があるホスト・マシンまたは Replication Agent がアクセスできるホスト・マシンに JDBC ドライバをインストールします。
2. JDBC ドライバのロケーションを CLASSPATH 環境変数に追加します。
   - UNIX の場合

     Replication Agent のインスタンスを起動および停止するユーザ・アカウントの `.login` ファイルに以下を追加します。

     ```
     setenv CLASSPATH /path_name/driver:$CLASSPATH
     ```

     構文の説明は次のとおりです。
     - *path_name* － JDBC ドライバをインストールした場所
     - *driver* － JDBC ドライバの名前

     この変更を適用するには、変更後にログアウトしてから再度ログインするか、**source .login** を発行します。

     注意： Microsoft SQL Server は UNIX では使用できません。
   - Microsoft Windows の場合

     [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [システム] > [環境変数] を選択し、パス・セパレータとしてセミコロン (;) を使用して、次のロケーションを既存の CLASSPATH 環境変数に追加するか、[ユーザ環境変数] でパスを作成します。

```
drive:¥path_name¥driver
```

構文の説明は次のとおりです。

- *drive* — ドライブ文字
- *path_name* — JDBC ドライバをインストールした場所
- *driver* — JDBC ドライバの名前
  - Oracle バージョン 11g リリース 1 以前の場合、名前は `ojdbc5.jar`。Oracle バージョン 11g リリース 2 の場合、名前は `ojdbc6.jar`。
  - Microsoft SQL Server の場合、名前は `sqljdbc.jar`。

[適用] > [OK] をクリックします。

注意： Replication Agent for Microsoft SQL Server は Microsoft Windows にインストールする必要があります。

3. Oracle ホスト・マシンでは、Oracle プライマリ・サーバが Transparent Network Substrate (TNS) リスナ・サービスを実行している必要があります。TNS の詳細については、Oracle ネットワークのマニュアルを参照してください。

Java Runtime Environment

Replication Agent には Java ランタイム環境 (JRE) が必要です。

Replication Agent は Java ベースのアプリケーションであるため、Replication Agent ホスト・マシンに Java ランタイム環境 (JRE) をインストールする必要があります。Replication Agent ソフトウェアのインストール時に、オペレーティング・システムに適した JRE が自動的にインストールされます。

Java SE 6 をサポートするには、オペレーティング・システムのパッチ・レベルが最新でなければなりません。プラットフォームに必要なパッチと JRE の最新情報については、次の Web サイトを参照してください。

- Linux、Solaris、Microsoft Windows プラットフォーム — http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/overview/index.html
- AIX プラットフォーム — http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/aix/service.html
- HP-UX プラットフォーム — http://www.hp.com/products1/unix/java

プラットフォームとオペレーティング・システム

Replication Agent の実行に必要なプラットフォームとオペレーティング・システムについて説明します。

表 5 : プラットフォームとオペレーティング・システムの要件

プラットフォーム	オペレーティング・システム・バージョン
HP-UX Itanium[a]	HP-UX 11.31 (64 ビットのみ)
IBM RISC System/6000[a]	IBM AIX 6.1、7.0 (64 ビットのみ)
Linux/Intel[a]	Linux x64： • Red Hat Enterprise Linux 5.5：カーネル・バージョン 2.6.9-42.EL • Red Hat Enterprise Linux 6.0：カーネル・バージョン 2.6.18-8.e15 • SuSE Linux Enterprise Server 11：カーネル・バージョン 2.6.16.21-0.8
Microsoft Windows	Windows x86 および x64： • Windows Server 2008 R1-SP2、R2 • Windows XP Professional • Windows 7
Solaris (SPARC)[a]	Solaris 10 (64 ビットのみ)
Solaris x64[b]	
a. Replication Agent for Microsoft SQL Server は Microsoft Windows にのみインストールできます。 b. Replication Agent for Oracle は、この UNIX プラットフォームでのみサポートされます。	

Replication Agent をインストールする前に、Java に必要なオペレーティング・システム・パッチがインストールされていることを確認してください。

表 6 : オペレーティング・システム・パッチの要件

プラットフォーム	参考書
HP-UX Itanium	HP-UX Java パッチ情報ページ (http://docs.hp.com/en/HPUXJAVA-PATCHES/index.html)

プラットフォーム	参考書
IBM AIX	AIX ダウンロードおよびサービス情報ページ (http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/aix/service.html)
Solaris (SPARC)	Java SE ダウンロード・ページ (http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html)

メモリ、ディスク領域、メディア・デバイス

Replication Agent をインストールする前に、ハードウェアの最小要件を確認します。

Replication Agent の設定によっては、このリストの最小要件を超えるメモリとディスク領域が必要になる場合があります。

メモリ	512 MB の RAM
ディスク領域	Replication Agent のインストールに必要なディスク領域はインストール・プログラムに反映され、Replication Agent と同時にインストールするコンポーネントに依存する。Replication Agent、SySAM ユーティリティ、SySAM サーバのインストールに必要なディスク領域は次のとおり。 • HP-UX の場合： 740MB • IBM AIX の場合： 480MB • Linux の場合： 390MB • Microsoft Windows の場合： 360MB • Solaris の場合：390MB
テンポラリ・ディスク領域	インストール・プログラムは、JRE、SySAM、Replication Agent のコンポーネントなど、インストール中に使用されるファイルを展開するために、`/tmp` ディレクトリを使用する。Replication Agent のインストールに必要なテンポラリ領域は次のとおり。 • HP-UX の場合： 900MB • IBM AIX の場合： 680MB • Linux の場合： 650MB • Microsoft Windows の場合： 530MB • Solaris の場合：720MB

Replication Agent システム・データベース

Replication Agent for Oracle と Replication Agent for Microsoft SQL Server の各インスタンスでは、埋め込みの SQL Anywhere® データベースを使用して、その Replication Agent システム・データベース (RASD) を管理します。

注意： この情報は Replication Agent for Oracle と Replication Agent for Microsoft SQL Server にのみ適用されます。

RASD はプライマリ・データベース構造またはスキーマ・オブジェクトに関する情報を格納しているため、そのサイズは、複写テーブルとプロシージャの数およびプライマリ・データベースのデータベース・ユーザ数にも一部依存します。

データ定義言語 (DDL: Data Definition Language) のトランザクションを複写するとき、Replication Agent は対象オブジェクトのメタデータの新しいバージョンを RASD に作成します。複写される DDL トランザクションの数と頻度によっては、時間が経つと RASD のサイズが大きく膨れ上がることがあります。

RASD の領域が不足すると、Replication Agent は停止し、複写をサスペンドします。これを防ぐには、RASD の初期サイズだけでなく、増大の可能性も考慮して、Replication Agent のホスト・マシンに十分なディスク領域を確保してください。

『Replication Agent 管理ガイド』を参照してください。

インストール・プログラムの要件

Replication Agent をインストールする前に、インストール要件を確認します。

GUI およびコンソール・モードのインストール

Replication Agent のインストール・モードを決めます。Replication Agent の標準インストール手順では、インストール・プログラム・ウィザードが GUI モード (GUI ウィザード) で使用されます。

インストール・プログラムの GUI ウィザードを使用して Replication Agent をインストールします。モニタ、キーボード、ポインティング・デバイスのないサーバでは、Replication Agent ホストにネットワーク接続している GUI 環境のリモート・マシンにアクセスする必要があります。インストール・プログラム・ウィザードを起動する前に、Replication Agent ソフトウェアをインストールするサーバに GUI 環境を提供するようにリモート・マシンが設定されていることを確認してください。

注意： また、インストール・プログラム・ウィザードをコンソール・モードで使用して、GUI 環境なしで、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから Replication Agent をインストールすることもできます。

ホーム・ディレクトリ・アクセス

UNIX または Linux にインストールする場合、Replication Agent インストール・プログラムはホーム・ディレクトリへの書き込みアクセス権を必要とします。

Visual C++ 2005 ランタイム・コンポーネント

Microsoft Windows プラットフォームの場合、Replication Agent 15.6 インストール・プログラムは Microsoft Visual C++ 2005 のライブラリ・コンポーネントを必要とします。Microsoft Visual C++ 2005 のライブラリがインストールされていないと、警告メッセージやエラー・メッセージなしにインストーラが応答しなくなります。

Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージがインストールされているかどうかを確認するには、[スタート] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] を選択して Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージを探します。必要に応じて、http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=200B2FD9-AE1A-4A14-984D-389C36F85647&displaylang=en から Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ (x86) をダウンロードできます。`vcredist_x86.exe` を実行して、Microsoft Windows 32 ビットまたは 64 ビットのマシンに Visual C++ ランタイム・コンポーネントをインストールします。

Replication Agent 15.7.1 インストール・ディレクトリ

Replication Agent 15.7.1 は `RAX-15_5` というディレクトリ名を使用します。Replication Agent 15.5 または 15.6 の既存のインストールがある場合、それを上書きしないようにするには、Replication Agent 15.7.1 を別の場所にインストールしてください。

チーム・スキルの要件

Replication Agent を使用して複写環境のインストールと設定を正常に行うには、特定のスキルを持つチーム・メンバが必要になります。

表 7 : Replication Agent インストール・スキルの要件

役割	スキルの定義
オペレーティング・システム管理者	• Linux、Solaris、HP-UX、AIX、Microsoft Windows オペレーティング・システムを理解している • インストール・サイトの標準と慣習を知っている
通信管理者	• TCP/IP など、サイトで使用されている接続や通信プロトコルを理解している • サイトのネットワーク構成を把握している • プライマリ・データベース、Replication Agent、Replication Server 間のリモート通信の設計、確立、テスト、トラブルシューティングができる
Replication Server 管理者	• Replication Server と複写システムの環境を理解している • Replication Server の管理者権限がある
Enterprise Connect™ Data Access (ECDA) 管理者	• Sybase 以外のデータベースへのデータの適用と ECDA について理解している • ECDA の管理者権限がある
ExpressConnect for Oracle 管理者	• Oracle データベースへのデータの適用と ExpressConnect for Oracle について理解している • ExpressConnect for Oracle の管理者権限がある
プライマリ・データベース管理者	• プライマリ・データベースについて理解している • プライマリ・データベースの管理者権限がある

インストールおよび設定ワークシートの記入

複写システムのインストールと設定に必要なすべての情報を記入します。

注意： このワークシートでは、Replication Agent を正しくインストールするために知っておく必要のある設定パラメータ値やその他の値をまとめています。

1. 「インストールおよび設定ワークシート」をコピーして、必要な情報を記入します。Replication Agent のインストールおよび設定中にワークシートを参照する必要がある場合があります。
2. 記入済みのワークシートのコピーを保存し、Sybase 製品のインストールまたはアップグレード中に参照します。

セクション 1：Replication Agent 管理情報の記入

Replication Agent の管理情報を確認し、ワークシートのセクション 1 に記入します。

1. Replication Agent のインスタンスの種類を確認します。このインスタンスの種類は、Replication Agent が操作するプライマリ・データベース・サーバを示します。

   インスタンスの種類は次のとおりです。

   - **oracle** － Oracle データベース・サーバ。Replication Agent for Oracle は、プライマリ Oracle インスタンスと同じ UNIX または Microsoft Windows ホストのプラットフォームにインストールしてください。**pdb_archive_remove** が true で **rman_enabled** が false の場合、Oracle ログに直接アクセスする必要があります。詳細については、『Replication Agent リファレンス・マニュアル』を参照してください。
   - **mssql** － Microsoft SQL Server。Replication Agent for Microsoft SQL Server は、プライマリ Microsoft SQL Server のトランザクション・ログに直接アクセスできる Microsoft Windows ホストにインストールする必要があります。
   - **ibmudb** － IBM DB2 Universal Database (UDB)。Replication Agent for UDB は、DB2 UDB サーバまたは DB2 UDB Administration Client と同じ UNIX または Microsoft Windows ホストにインストールする必要があります。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 1：Replication Agent 管理情報」の **1a** にインスタンスの種類を記入します。
2. Replication Agent インスタンスの名前を決めます。この名前はこのインスタンスに固有のものでなければなりません。

「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 1：Replication Agent 管理情報」の **1b** にインスタンス名を記入します。

3. この Replication Agent インスタンスの管理ポートのクライアント・ソケット・ポート番号を指定します。ポート番号は、Replication Agent ホスト・マシン上でユニークでなければなりません。

   Replication Agent のインスタンスをインストールするシステムのシステム管理者でない場合は、Replication Agent 管理ポートに使用するポート番号をシステム管理者に問い合わせてください。ポート番号の範囲は 1 ～ 65,535 です。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 1：Replication Agent 管理情報」の **1c** (**admin_port**) にポート番号を記入します。Replication Agent for Oracle と Replication Agent for Microsoft SQL Server には、それぞれ 2 つのポート番号が必要です。もう 1 つは RASD 用です。デフォルトでは、RASD ポート *admin port +1* が割り当てられます。この番号も Replication Agent ホスト・マシン上でユニークでなければなりません。

4. interfaces ファイル (`sql.ini` (Microsoft Windows の場合) または `interfaces` (Linux および UNIX の場合) の場所を決めます。

   この項目は、**isql** または **jisql** ユーティリティ、または Replication Manager (RM) を使用して Replication Agent インスタンスを管理する場合にのみ記入してください。interfaces ファイルは Replication Agent クライアント (**isql** または Replication Manager) と同じマシンに存在する必要がありますが、必ずしも Replication Agent ホスト・マシンでなくてもかまいません。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 1：Replication Agent 管理情報」の **1d** に interfaces ファイルの場所を記入します。

5. Replication Agent の管理ポートにログインするための管理ユーザ ID とパスワードを決めます。構成および設定時に、この情報を使用して管理ユーザ ID を作成します。

   『Replication Agent 管理ガイド』を参照してください。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 1：Replication Agent 管理情報」の **1e** (**admin_user**) に管理ユーザ ID、**1f** (**admin_pw**) にパスワードを記入します。

セクション 2：プライマリ・データベース・コネクションの Replication Server パラメータ値の記入

Replication Server のコネクション・パラメータの値を決め、ワークシートのセクション 2 に記入します。これらの値は Replication Server の **create connection** コマン

ドで、プライマリ・データベースのデータベース・コネクション作成時に使用されます。

create connection コマンドの使用法の詳細については、『Replication Server 管理ガイド』を参照してください。

1. Replication Server のプライマリ・データベース・コネクションを表すデータ・サーバ名とデータベース名を指定します。

   - Replication Server は Replication Agent のインスタンスを介してプライマリ・データベースに接続するので、データ・サーバの名前を Replication Agent のインスタンスの名前にすることもできます。
   - データベース名は、Replication Server がプライマリ・データベースとの通信に使用する名前で、識別しやすい名前にします。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 2：プライマリ・データベース・コネクションの Replication Server パラメータ値」の **2a** (**rs_source_ds**) にインスタンス名またはデータ・サーバ名、**2b** (**rs_source_db**) にデータベース名を記入します。

   注意： これらの名前は大文字と小文字が区別されます。

2. プライマリ・データベースへの Replication Server データベース・コネクションに関連付けられたメンテナンス・ユーザ ID とパスワードを指定します。

   メンテナンス・ユーザ ID はプライマリ・データベースで有効なユーザ ID でなければならず、複写が必要になる可能性のあるトランザクションを適用するプライマリ・データベース・ユーザのユーザ ID であってはなりません。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 2：プライマリ・データベース・コネクションの Replication Server パラメータ値」の **2c** (メンテナンス・ユーザ) にメンテナンス・ユーザ ID、**2d** (メンテナンス・ユーザ・パスワード) にパスワードを記入します。

セクション 3：Replication Server の Replication Agent パラメータ値の記入

プライマリ Replication Server の Replication Agent 設定パラメータ値を決めて、ワークシートのセクション 3 に記入します。これらの値は、Replication Agent のインスタンスを設定するときに Replication Agent の **ra_config** コマンドで使用されます。

Replication Agent パラメータの初期設定に **ra_config** コマンドを使用する方法の詳細については、『Replication Agent 管理ガイド』を参照してください。

1. プライマリ Replication Server ホスト・マシンの名前を指定します。

「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 3：Replication Server の Replication Agent パラメータ値」の **3a** (**rs_host_name**) に Replication Server のホスト・マシン名を記入します。

2. Replication Server のクライアント・ソケット・ポートのポート番号を指定します。

   これは Replication Server にログインするために Replication Agent が使用するポート番号です。ポート番号の範囲はすべて 1 ～ 65,535 です。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 3：Replication Server の Replication Agent パラメータ値」の **3b** (**rs_port_number**) にポート番号を記入します。

3. Replication Agent が Replication Server へのログインに使用するユーザ名とパスワードを指定します。

   この Replication Server クライアント・ユーザ ID には Replication Server の **connect source** パーミッションが必要です。『Replication Server リファレンス・マニュアル』を参照してください。

   Replication Agent のインスタンスをインストールするシステムのシステム管理者でない場合は、プライマリ Replication Server の正しいユーザ ID とパスワードをシステム管理者に問い合わせてください。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 3：Replication Server の Replication Agent パラメータ値」の **3c** (**rs_username**) に Replication Server クライアント・ユーザ ID、**3d** (**rs_password**) にパスワードを記入します。

4. Replication Server の文字セットを指定します。

   注意： Replication Server 15.0 以前を使用している場合にのみ、この手順を実行してください。Replication Server 15.0.1 以降の場合は、Replication Agent が自動的に Replication Server のプロパティ **RS_charset** を問い合わせます。

   RS_charset プロパティは Replication Server の文字セットを指定し、Replication Server 設定ファイルで定義されています。設定ファイルは次の場所にあります。

   ```
   $SYBASE/RSfolder/install/rssrvname.cfg
   ```

   構文の説明は次のとおりです。

   - *$SYBASE* ― Replication Server ソフトウェアのインストール・ディレクトリ。
   - *RSfolder* ― Replication Server フォルダ。例：`REP-15_0`。
   - *rssrvname* ― Replication Server インスタンスの名前。

「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 3：Replication Server の Replication Agent パラメータ値」の **3e** (**rs_charset**) に Replication Server の文字セットを記入します。

セクション 4：ERSSD または RSSD の Replication Agent パラメータ値の記入

プライマリ Replication Server の ERSSD または RSSD の Replication Agent 設定パラメータ値を決めて、ワークシートのセクション 4 に記入します。

注意： Replication Agent は、ERSSD または RSSD へのコネクションをサポートしています。2 つの設定は同じであるため、この情報は RSSD と ERSSD の両方のインストールを指し、ここでは「RSSD」と呼んでいます。

1. RSSD が存在するホスト・マシンの名前を指定します。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 4：RSSD の Replication Agent パラメータ値」の **4a** (**rssd_host_name**) にホスト・マシンの名前を記入します。
2. RSSD が存在するサーバのクライアント・ソケット・ポートのポート番号を指定します。ポート番号の範囲はすべて 1 ～ 65,535 です。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 4：RSSD の Replication Agent パラメータ値」の **4b** (**rssd_port_number**) にポート番号を記入します。
3. プライマリ Replication Server の RSSD データベース名を指定します。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 4：RSSD の Replication Agent パラメータ値」の **4c** (**rssd_database_name**) に RSSD データベース名を記入します。
4. プライマリ Replication Server の RSSD にアクセスするために Replication Agent が使用するユーザ ID とパスワードを指定します。

   RSSD のユーザ ID とパスワードを持っている必要があります。持っていない場合は、Replication Server システム管理者に連絡してください。「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 4：RSSD の Replication Agent パラメータ値」の **4d** (**rssd_username**) に RSSD クライアント・ユーザ ID、**4e** (**rssd_password**) にパスワードを記入します。

セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値の記入

プライマリ・データ・サーバの Replication Agent 設定パラメータ値を決めて、ワークシートのセクション 5 に記入します。

1. プライマリ・データベースの種類が Oracle の場合は、プライマリ・データベースへのコネクション・プロパティを含む `tnsnames.ora` ファイル名とプライマリ・データ・サーバのコネクション名を指定します。

   `tnsnames.ora` ファイル名を項目 **5a** (**pds_tns_filename**) として、コネクション名を項目 **5b (pds_tns_connection)** として、「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」に記入します。
2. Oracle Automatic Storage Management (ASM) を使用している場合は、ASM データベースのコネクション・プロパティを含む `tnsnames.ora` ファイル名を指定します。これが、**pds_tns_filename** で設定されている `tnsnames.ora` ファイルと同じであれば、**asm_tns_filename** を設定しなくてもかまいません。また、ASM データ・サーバの名前、ASM コネクション、ASM ユーザ名、ASM パスワードも指定します。

   `tnsnames.ora` ファイル名を項目 **5c** (**asm_tns_filename**) として、ASM コネクション名を項目 **5d** (**asm_tns_connection**) として、ASM ユーザ名を項目 **5e** (**asm_username**) として、ASM パスワードを項目 **5f** (**asm_password**) として、「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」に記入します。**asm_tns_filename** は、**pds_tns_filename** に ASM コネクション情報がない場合にのみ必要になります。
3. プライマリ・データベースの種類が Microsoft SQL Server の場合は、プライマリ・データ・サーバのクライアント・ソケット・ポートのポート番号を指定します。ポート番号の範囲は 1 ～ 65,535 です。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」の **5g** (**pds_port_number**) にクライアント・ソケットのポート番号を記入します。
4. プライマリ・データベースの種類が Microsoft SQL Server の場合は、プライマリ・データベース・サーバの名前を指定します。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」の **5h** (**pds_server_name**) にプライマリ・データベース・サーバ名を記入します。

5. プライマリ・データ・サーバのプライマリ・データベースの名前を指定します。

   pds_database_name パラメータの値は、**rs_source_db** (ワークシートの **2b)** と同じにできますが、**pds_database_name** パラメータの値がプライマリ・データベース・サーバで有効な値として存在する必要があります。

   プライマリ・データベース・サーバが Oracle の場合は、ORACLE_SID システム環境変数 (Microsoft Windows では %ORACLE_SID%、UNIX では $ORACLE_SID) の値を使用する必要があります。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」の **5i** (**pds_database_name**) にデータベース名を記入します。
6. プライマリ・データベース・サーバが DB2 Universal Database の場合は、ODBC ドライバで設定したデータ・ソース名 (DSN) か、カタログ化したデータベース・エイリアスをプライマリ・データベースに指定します。データ・ソース名パラメータ (**pds_datasource_name**) の値は、プライマリ・データベースを示す DB2 データベースのエイリアスでなければなりません。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」の **5j** (**pds_datasource_name**) に適切なデータ・ソース名 (DSN) の値を記入します。
7. Replication Agent がプライマリ・データ・サーバへのログインに使用するユーザ ID とパスワードを指定します。このユーザ ID はプライマリ・データベース・コネクションの Replication Server メンテナンス ID とは異なります。

   このプライマリ・データ・サーバ・ユーザ ID には、プライマリ・データベースのデータベース・レベルの特権が複数必要です。『Replication Agent プライマリ・データベース・ガイド』を参照してください。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」の **5k** (**pds_username**) に、このプライマリ・データ・サーバのユーザ ID、**5l** (**pds_password**) にパスワードを記入します。
8. プライマリ・データベースの文字セットを指定し、Java に対応する文字列を確認します。

   有効な Java 6 文字セットのリストについては、http://download.oracle.com/javase/6/docs/technotes/guides/intl/encoding.doc.html で「Internationalization」ページの「Supported Encodings」を参照してください。

「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」の **5m** に対応する Java 文字セットの名前を記入します。

9. (Microsoft SQL Server の場合) 管理専用ポート番号 (**pds_dac_port_number**) を指定します。『Replication Agent プライマリ・データベース・ガイド』を参照してください。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 5：プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値」の **5n** に DAC ポート番号を記入します。

セクション 6：レプリケート・データ・サーバの Replication Server パラメータ値の記入

レプリケート・データ・サーバのパラメータの値を決め、ワークシートのセクション 6 に記入します。これらの値はマテリアライゼーションの手順で使用します。

1. レプリケート・データ・サーバ・ホスト・マシンの名前を指定します。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 6：レプリケート・データ・サーバの Replication Server パラメータ値」の **6a** (レプリケート・ホスト名) にホスト・マシン名を記入します。

2. レプリケート・データ・サーバ上のレプリケート・データベースの名前を指定します。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 6：レプリケート・データ・サーバの Replication Server パラメータ値」の **6b** (レプリケート・データベース名) にデータベース名を記入します。

3. DDL コマンドを複写する場合は、Replication Server がレプリケート・データベースにログインして DDL コマンドを適用するために使用するユーザ ID とパスワードを決めます。このユーザ ID は、複写接続で定義されている Replication Server メンテナンス・ユーザとは異なります。

   「インストールおよび設定ワークシート」の「セクション 6：レプリケート・データ・サーバの Replication Server パラメータ値」の **6c** (**ddl_username**) に DDL ユーザ名、**6d** (**ddl_password**) に DDL パスワードを記入します。

インストールおよび設定ワークシート

インストールする Replication Agent のインスタンスごとにこのワークシートをコピーします。Replication Agent ソフトウェアをインストールする前に、ワークシートに記入してください。

Replication Agent のコマンド、オプション、パラメータの詳細については、『Replication Agent リファレンス・マニュアル』を参照してください。

セクション 1： Replication Agent 管理情報

項目	説明	値の例	使用する値
1a	Replication Agent のインスタンスの種類 これは Replication Agent のインスタンスが操作するプライマリ・データベースの種類を示します。	**oracle**	
1b	Replication Agent のインスタンス名 この名前は Replication Agent のすべてのインスタンス間でユニークでなければなりません。	**ra_sales_instance**	
1c	**admin_port** これは Replication Agent 管理ポートのクライアント・ソケット・ポート番号です。ポート番号はユニーク (Replication Agent ホスト・マシン上の他のアプリケーションで未使用) でなければなりません。 **注意：** 使用できるポート番号を確認するには、システム管理者に問い合わせてください。 **注意：** Replication Agent for Oracle と Replication Agent for Microsoft SQL Server には、それぞれ 2 つのポート番号が必要です。もう 1 つは RASD 用です。デフォルトでは、RASD ポート *admin port +1* が割り当てられます。この番号はユニークでなければなりません。	**10000**	

項目	説明	値の例	使用する値
1d	`interfaces` ファイルのロケーション。 この項目は、**isql** ユーティリティまたは Replication Manager を使用して Replication Agent インスタンスを管理する場合にのみ記入してください。	• UNIX の場合：`$SYBASE/interfaces` • Microsoft Windows の場合：`%SYBASE%¥ini¥sql.ini`	
1e	**admin_user** これは Replication Agent のインスタンスにログインするときに使用する管理ユーザ ID です。 デフォルト値は **sa** です。	**admin_user**	
1f	**admin_pw** これは Replication Agent のインスタンスにログインするときに使用する管理パスワードです。 デフォルト値は空の文字列 **("")** です。	**admin_pw**	

セクション2： プライマリ・データベース・コネクションのReplication Server パラメータ値

項目	説明	値の例	使用する値
2a	**rs_source_ds** これは Replication Agent が接続するプライマリ・データ・サーバを表すデータ・サーバ名です。 この値は、プライマリ Replication Server で Replication Agent のコネクションを作成するために使用する **create connection** コマンドで指定します。 **注意：** この名前には Replication Agent のインスタンスの名前を使用できます。	**ra_sales_instance**	
2b	**rs_source_db** これは Replication Server が接続するプライマリ・データベースを表すデータベース名です。 この値は、プライマリ Replication Server で Replication Agent のコネクションを作成するために使用する **create connection** コマンドで指定されます。 **注意：** この名前は、プライマリ・データベースへのコネクションとして識別しやすい任意の名前にすることができます。たとえば、**pds_database_name** と同じ名前にすることができます。	**sales_db**	
2c	メンテナンス・ユーザ これはプライマリ・データベースへのコネクションに関連付ける Replication Server メンテナンス・ユーザ ID です。 Replication Server ではデータベースに接続するたびにメンテナンス・ユーザ ID が必要になります。この値は、プライマリ・データベースへのコネクションを作成するときに **create connection** コマンドで使用されます。 **注意：** このユーザ ID はプライマリ・データベースで有効でなければなりません。	**maint_user**	

項目	説明	値の例	使用する値
2d	メンテナンス・ユーザのパスワード これはプライマリ・データベースへのコネクションに関連付けられる Replication Server メンテナンス・ユーザ・パスワードです。	**maint_pwd**	

セクション 3： Replication Server の Replication Agent パラメータ値

項目	説明	値の例	使用する値
3a	**rs_host_name** これは Replication Server のホスト・マシンの名前または IP アドレスです。	**rs_host**	
3b	**rs_port_number** これは Replication Server にログインするために Replication Agent が使用するポート番号です。	**1111**	
3c	**rs_username** これは Replication Agent がプライマリ Replication Server にログインするときに使用する Replication Server クライアントのユーザ ID です。 このユーザ ID には Replication Server の **connect source** 権限が必要です。 **注意： rs_username** パラメータの値を **pdb_maint_user** パラメータ (**2c**) の値と同じにすることはできません。	**rs_user**	
3d	**rs_password** これは Replication Agent がプライマリ Replication Server にログインするときに使用する Replication Server クライアントのユーザ・パスワードです。	**rs_pw**	

項目	説明	値の例	使用する値
3e	**rs_charset** **注意：** このプロパティは、Replication Server 15.0 以前を使用している場合にのみ参照されます。Replication Server 15.0.1 以降の場合は、Replication Agent が自動的に Replication Server のプロパティ **RS_charset** を問い合わせます。 これは Replication Server 用 LTL コマンドの作成時に Replication Agent が使用する文字セットです。Replication Server 設定ファイルの **RS_charset** プロパティで定義されている Replication Server の文字セットと一致する必要があります。設定ファイルの例は `$SYBASE/REP-15_0/install/` *instance_name* `.cfg` です。ここで、*instance_name* は Replication Agent のインスタンスの名前です。 **注意：** Replication Server 15.0 以前を使用している場合は、このプロパティをプライマリ Replication Server の文字セット以外に設定すると、Replication Agent から受け取る LTL コマンドの文字セット変換が正しく実行されない可能性があります。この値が RA_JAVA_DFLT_CHARSET の値 (プライマリ・データベースの文字セットと一致する必要があります) と異なる場合にのみ、複写される文字データに Replication Agent が文字セット変換を実行します。文字セット変換により、パフォーマンスは低下します。	• UNIX の場合： **iso_1** • Windows の場合： **cp850**	

セクション 4： RSSD の Replication Agent パラメータ値

項目	説明	値の例	使用する値
4a	**rssd_host_name** これはプライマリ Replication Server が存在する RSSD ホスト・マシンの名前です。	**rssd_host**	

項目	説明	値の例	使用する値
4b	**rssd_port_number** これは RSSD データ・サーバのクライアント・ソケット・ポート番号です。	**1111**	
4c	**rssd_database_name** これはプライマリ Replication Server の RSSD の名前です。	**rsdb_RSSD**	
4d	**rssd_username** これは Replication Agent がプライマリ Replication Server の RSSD にアクセスするときに使用する RSSD クライアント・ユーザ ID です。	**rssd_user**	
4e	**rssd_password** これは Replication Agent が使用する RSSD クライアント・パスワードです。	**rssd_pass**	

セクション 5： プライマリ・データ・サーバの Replication Agent パラメータ値

項目	説明	値の例	使用する値
5a	**pds_tns_filename** **注意：** この値は Oracle 専用です。 プライマリ Oracle データ・サーバのコネクション・プロパティが含まれている `tnsnames.ora` ファイルを識別する完全修飾ファイル名。	**/path1/tnsnames.ora**	
5b	**pds_tns_connection** **注意：** この値は Oracle 専用です。 Oracle `tnsnames.ora` ファイルでプライマリ・データベース・コネクションを識別する Oracle コネクション名。	**SALES_DB_CONN**	

項目	説明	値の例	使用する値
5c	**asm_tns_filename** **注意：** この値は Oracle 専用です。 ASM コネクション情報が格納された Oracle `tnsnames.ora` ファイル名を識別。これが、**pds_tns_filename** で設定されている `tnsnames.ora` ファイルと同じであれば、このパラメータは設定しなくてもかまいません。 **注意：** プライマリ Oracle の redo ログが Automatic Storage Management で管理されている場合にのみ、このパラメータを設定します。	**/path2/tnsnames.ora**	
5d	**asm_tns_connection** **注意：** この値は Oracle 専用です。 `tnsnames.ora` ファイルで検出される Oracle ASM コネクション名を識別。 **注意：** プライマリ Oracle の redo ログが Automatic Storage Management で管理されている場合にのみ、このパラメータを設定します。	**+ASM1_CONN**	
5e	**asm_username** **注意：** この値は Oracle 専用です。 ASM サーバへの接続に使用する Oracle ユーザ名を識別します。 **注意：** プライマリ Oracle の redo ログが Automatic Storage Management で管理されている場合にのみ、このパラメータを設定します。	**sys as sysdba**	

項目	説明	値の例	使用する値
5f	**asm_password** 注意： この値は Oracle 専用です。 **asm_username** で指定したユーザが Oracle ASM にアクセスするためのパスワード。 注意： プライマリ Oracle の redo ログが Automatic Storage Management で管理されている場合にのみ、このパラメータを設定します。	**change_on_install**	
5g	**pds_port_number** これはプライマリ・データベース・ゲートウェイ・サーバ用のクライアント・ソケットのポート番号です。	**1111**	
5h	**pds_server_name** 注意： この値は Microsoft SQL Server 専用です。 これは Microsoft SQL Server プライマリ・データベース・サーバの名前です。	**doc_23**	
5i	**pds_database_name** これはプライマリ・データベース・サーバのプライマリ・データベースの名前です。 Replication Agent はこの値を使用して、プライマリ・データベースを特定します。 注意： Oracle の場合は、$ORACLE_SID を使用します。Microsoft SQL Server および UDB の場合は、プライマリ・データベースの実際の名前を使用します。	**sales_db**	
5j	**pds_datasource_name** 注意： この値は DB2 Universal Database 専用です。 これは、ODBC ドライバのデータ・ソース名 (DSN) か、プライマリ・データベースのカタログ化したデータベース・エイリアスです。	**sales_db_alias**	

項目	説明	値の例	使用する値
5k	**pds_username** これは Replication Agent がプライマリ・データベースにログインするために使用するユーザ ID です。	**pds_user**	
5l	**pds_password** これは **pds_username** のパスワードです。	**pds_pw**	
5m	これはプライマリ・データベース文字セットの Java バージョンの名前です。 **注意：** JVM がシステムから検出するデフォルト文字セットを上書きする場合を除いて、文字セット関連の環境変数、RA_JAVA_DFLT_CHARSET を明示的に設定する必要はありません。ただし、システムのデフォルト文字セットがプライマリ・データベースの文字セットと一致する必要があります。	• UNIX の場合：**ISO8859_1** • Windows の場合 **Cp850**	
5n	**pds_dac_port_number** **注意：** この値は Microsoft SQL Server 専用です。 プライマリ・データ・サーバのサーバ・レベルの初期化時に、プライマリ・データベースに接続するために Replication Agent が使用する専用管理接続のポート番号。	**1348**	

セクション6： レプリケート・データ・サーバの Replication Server パラメータ値

項目	説明	値の例	使用する値
6a	レプリケート・ホスト名 レプリケート・データ・サーバが存在するホスト・マシンの名前。 この名前は、サブスクリプションを作成するときに必要になります。Replication Server のマニュアルを参照してください。	**rds_host**	

項目	説明	値の例	使用する値
6b	レプリケート・データベースの名前。 これはレプリケート・データベース・サーバにあるレプリケート・データベースの名前です。 この名前は、サブスクリプションを作成するときに必要になります。Replication Server のマニュアルを参照してください。	**replicate_db**	
6c	**ddl_username** **注意：** この値は Oracle および Microsoft SQL Server 専用です。 これは Replication Server がレプリケート・データベースにログインして DDL コマンドを適用するときに使用するレプリケート・データベース・クライアント・ユーザ ID です。 このユーザ ID には、レプリケート・データベースでスキーマを作成したり、プライマリ・データベースから複写される DDL コマンドを発行したりするための権限が必要です。 Replication Agent は、プライマリ・データベースで実行される DDL コマンドと一緒にこの ID とパスワードを Replication Server に送ります。 **注意：** **ddl_username** の値を、Replication Server で複写接続用に定義されているメンテナンス・ユーザの値と同じにすることはできません。	**scott**	
6d	**ddl_password** **注意：** この値は Oracle および Microsoft SQL Server 専用です。 これは Replication Server が **ddl_username** で使用するレプリケート・データベース・クライアント・ユーザのパスワードです。	**tiger**	

インストールと設定の詳細については、Replication Agent と Replication Server の次のガイドを参照してください。

- 『Replication Agent 管理ガイド』 －
  Replication Server の Replication Agent パラメータの初期設定
- 『Replication Agent プライマリ・データベース・ガイド』 －

複写するプライマリ・データベースの初期設定
- 『Replication Agent リファレンス・マニュアル』 — **ra_config** コマンド
- 『Replication Server リファレンス・マニュアル』 — Replication Server のコマンドとパラメータ

Replication Agent のインストール

選択した方法を使用して Replication Agent をインストールします。

前提条件
インストール計画の作業を完了します。

手順

注意： 必要に応じて、Sybase ソフトウェア資産管理ライセンス・マネージャ (SySAM 2) が自動的にインストールされます。

1. インストール方法を選択します。
   - GUI ウィザード
   - コンソール・モード
   - 応答ファイル

   コンソール・モードでインストールする場合は、インストール・プログラムのコマンド・ライン・オプションを確認します。
2. 選択した方法の手順に従います。
3. インストール後の手順を実行します。

インストール・プログラムのコマンド・ライン・オプション

コンソール・モードでの Replication Agent のインストールまたはアンインストール時に使用できるコマンド・ライン・オプションを確認します。

表 8 : コマンド・ライン・オプション

オプション	目的
-¥?	インストーラのヘルプを表示する。

オプション	目的
-D	カスタム変数およびプロパティを渡す。たとえば、インストーラの実行時にデフォルトのインストール・ディレクトリを上書きするには、次のように入力する。 `<install_launcher_name> -DUSER_INSTALL_DIR=E:¥Sybase`
-f	応答ファイルを参照する。
-i console	コンソール **interface** モードを使用する。インストール・メッセージが Java コンソールに表示され、ウィザードがコンソール・モードで実行される。
-i silent	製品をサイレント・モードでインストールまたはアンインストールする。インストールまたはアンインストールはユーザとの対話なしで実行される。
-i swing	製品を GUI モードでインストールまたはアンインストールする。デフォルト値。
-l	インストーラのロケールを設定する。現時点では us_en のみがサポートされている。
-r	応答ファイルと参照を生成する。

注意： コマンド・ライン・オプションを使用する場合は、応答ファイルのファイル名を含むフル・パスを指定してください。

デバッグ情報の表示

インストール中にデバッグ情報を表示します。
UNIX では、環境変数 LAX_DEBUG を true に設定してインストール・プログラムを実行します。

Windows では、[Ctrl] キーを押しながら `setupConsole.exe` をダブルクリックするか (コンソール・モードのインストールの場合)、`setup.exe` をダブルクリックします (GUI モードのインストールの場合)。

デバッグ情報は、インストール・プログラムを起動したウィンドウに表示されます。

注意： インストール中にエラーが発生した場合は、`$SYBASE/log` (UNIX) または `%SYBASE%¥log` (Windows) でインストール・ログ・ファイルを確認してください。

GUI ウィザードによる Replication Agent のインストール

Replication Agent を GUI ウィザードを使用してインストールします。

GUI ウィザードでインストールするには、Replication Agent ホスト・マシンにモニター、キーボード、ポインティング・デバイスを装備した GUI 環境か、Replication Agent ホスト・マシンの GUI 環境を提供するように設定されたリモート・マシンが必要です。

注意： デフォルトのテンポラリ・ディレクトリに十分なディスク領域がない場合は、IATEMPDIR (Linux および UNIX の場合) または TMP (Windows の場合) 環境変数を十分な領域のあるディレクトリに設定します。このディレクトリのフル・パスを含めてください。

1. Replication Agent のインスタンスを起動、停止、管理する権限のあるオペレーティング・システム・ユーザ・アカウント (“sybase” ユーザなど) を使用して、Replication Agent ホスト・マシンにログインします。
2. 重要でないアプリケーションをすべて閉じ、開いているウィンドウを最小化します。
3. Replication Agent 15.7.1 配布メディアを適切なドライブに挿入します。
4. インストール・プログラムを起動します。
   - Microsoft Windows プラットフォームでは、インストール・プログラムが自動的に起動します。起動しない場合は、[スタート] > [ファイル名を指定して実行]を選択し、次のように入力します。

     ```
     x:¥setup.exe
     ```

     x: はメディア・ドライブです。
     インストール・プログラムは、Microsoft Windows エクスプローラから `setup.exe` ファイルをダブルクリックして起動することもできます。
   - UNIX プラットフォームの場合、次のように入力します。

     ```
     cd /cdrom
     ```

     ```
     ./setup.bin
     ```

     [次へ] をクリックします。

     注意： 途中でインストールを中止するには、[キャンセル] をクリックします。
5. 地域を選択し、ライセンス契約に同意したら、[次へ] をクリックします。
6. インストール・ディレクトリを指定します。デフォルトのインストール・ディレクトリは次のとおりです。

- 既存の *%SYBASE%* または `c:¥sybase` (Microsoft Windows プラットフォームの場合)
- 既存の *$SYBASE* または `/opt/sybase` (UNIX プラットフォームの場合)

デフォルトのインストール・ディレクトリを受け入れるには、[次へ] をクリックします。それ以外の場合は、次のいずれかを実行します。

- ファイル・ブラウザでインストール・ディレクトリを選択するには、[選択] をクリックします。[次へ] をクリックします。
- ディレクトリ名を入力します。[次へ] をクリックします。

ディレクトリ名が存在しない場合は、ディレクトリを作成するかどうかを尋ねる次のプロンプトが表示されたら、[はい] をクリックします。

```
The directory does not exist.
Do you want to create it?
```

指定したディレクトリが存在する場合は、次の警告が表示されます。

```
Warning: You have chosen to install into an existing
directory. If you proceed with this installation,
any older versions of the products you choose to
install that are detected in this directory will be
replaced.
```

継続すると、古い製品が Replication Agent 15.6 と一緒にインストールされていない場合に、共通ファイルが上書きされます。

注意： Microsoft Windows プラットフォームでは、DLL を上書きするプロンプトが表示されたとき、新しい DLL のバージョンが、インストール・プログラムが上書きしようとしているバージョンよりも新しい場合にのみ、[はい] をクリックします。

7. Replication Agent が接続するプライマリ・データベースを選択します。

- Oracle
- Microsoft SQL Server
- UDB

[次へ] をクリックします。

8. 次のいずれかのオプションを選択して、ライセンスを入力します。

- [ライセンス・キーを指定] － ライセンス・ファイルを参照するか指定します。
- [以前に配備したライセンス・サーバを使用] － 以前に配備したライセンス・サーバを使用します。ライセンス・サーバが稼働しているマシンのホスト名を入力し、使用しているポート番号がデフォルトでない場合はポート番号も入力します。
- [ライセンス・キーなしでインストールを続行] － 30 日の猶予期間中、ライセンスなしで Replication Agent をインストールして使用します。猶予期間後

も継続して Replication Agent を使用する場合は、Sybase 製品ダウンロード・センタ (http://www.sybase.com/detail?id=1025266) から有効なライセンスを入手してください。
『Sybase ソフトウェア資産管理ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[Sybase Software Asset Management Notification] ウィンドウが表示されるまで、[次へ] をクリックします。

9. [Sybase Software Asset Management Notification] ウィンドウで、サーバに電子メール通知を設定します。設定が有効になると、注意を要するライセンス管理イベントの情報を受信するようになります。[はい] を選択して、表示されているデフォルト値を受け入れるか、次の値を入力します。

- SMTP サーバのホスト名
- SMTP サーバのポート番号
- 電子メールの返信先アドレス
- 通知の受信者
- 電子メール通知をトリガするイベントのメッセージの重大度
  - 情報
  - 警告
  - エラー

電子メール通知や重大度メッセージをログに記録しない場合は、[いいえ] を選択します。

[次へ] をクリックします。

10. [プリインストールの要約] ウィンドウのリストで製品の機能やコンポーネントを確認します。[インストール] をクリックします。

指定したインストール・ディレクトリに、コンポーネントがインストールされ、インストールの進行状況が表示されます。

インストール中にエラーが発生した場合は、エラー・メッセージが表示されます。インストール・プログラム・ウィザードを終了してエラーの原因を修正してから、インストール・プログラムを再起動してください。

ソフトウェアが正しくインストールされると、インストールの成功を知らせるウィンドウが表示されます。

11. [完了] をクリックして、インストールを終了し、インストール・プログラムを閉じます。

コンソール・モードでの Replication Agent のインストール

Replication Agent ソフトウェアを対話型のテキスト (コンソール) モードでインストールします。

Replication Agent をコンソール・モードでインストールする手順は、次の点を除けば、GUI ウィザードの場合と同じです。

注意： デフォルトのテンポラリ・ディレクトリに十分なディスク領域がない場合は、十分な領域があるディレクトリに IATEMPDIR (Linux および UNIX の場合) または TMP (Windows の場合) 環境変数を設定します。このディレクトリのフル・パスを含めてください。

- コマンド・プロンプトでインストール・プログラム・ウィザードを起動する
- インストール・オプションのすべてを選択する場合に、キーボードのみを使用する

このインストール手順では、インストール・プログラム・ウィザードをコンソール・モードで使用します。これには、次のいずれかが必要です。

- Replication Agent ホスト・マシンのモニタとキーボード
- Replication Agent ホスト・マシンを制御するように設定したリモート・マシンのモニタとキーボード

インストール・プログラムで使用できるコマンド・ライン・オプションについては、「インストール・プログラムのコマンド・ライン・オプション」 (39 ページ) を参照してください。

注意： このインストール手順では、Replication Agent ソフトウェアのインストールにポインティング・デバイスや GUI 環境は必要ありません。

1. Replication Agent のインスタンスを起動、停止、管理する権限のあるオペレーティング・システム・ユーザ・アカウント (“sybase” ユーザなど) を使用して、Replication Agent ホスト・マシンにログインします。
2. 重要でないアプリケーションをすべて閉じ、開いているウィンドウを最小化します。
3. Replication Agent 15.7.1 メディアを適切なドライブに挿入します。

   注意： Microsoft Windows プラットフォームでは、インストール・プログラムが自動的に起動したときに、[キャンセル] をクリックします。
4. オペレーティング・システムのコマンド・ウィンドウを開き、メディア・ドライブを現在のドライブとして設定します。

5. インストール・プログラムをコンソール・モードで起動します。
   - Microsoft Windows の場合：
     ```
     setupConsole.exe -i console
     ```
   - UNIX の場合：
     ```
     ./setup.bin -i console
     ```

   初期メッセージが表示されます。
6. ウィザードの残りのプロンプトに従って Replication Agent 15.7.1 ソフトウェアをインストールします。

   指定したインストール・ディレクトリに、コンポーネントがインストールされ、インストールの進行状況が表示されます。

インストール中にエラーが発生した場合は、エラー・メッセージが表示されます。インストール・プログラム・ウィザードを終了してエラーの原因を修正してから、インストール・プログラムを再起動してください。

ソフトウェアが正しくインストールされると、インストールの成功を知らせるメッセージが表示されます。

応答ファイルを使用したインストール

応答ファイルには、インストール・プログラム・ウィザードのプロンプトすべてに対する応答が含まれています。

Replication Agent 15.7.1 ソフトウェアは、応答ファイルを使用してコンソール・モードでもサイレント・モードでもインストールできます。

注意： デフォルトのテンポラリ・ディレクトリに十分なディスク領域がない場合は、十分な領域のあるディレクトリに IATEMPDIR (Linux および UNIX の場合) または TMP (Windows の場合) 環境変数を設定します。このディレクトリのフル・パスを含めてください。

応答ファイルの作成

GUI またはコンソール・モードでインストールするときに、GUI インストール・ウィザードへの応答を記録して応答ファイルを作成します。インストール・ウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。

必要に応じて (インストール間でいくつか応答が異なる場合など)、応答ファイル (テキスト・ファイル) を編集して以降のインストールに使用できます。

GUI またはコンソール・インストールの記録による応答ファイルの作成

GUI またはコンソール・インストールへの応答を記録して、Replication Agent をインストールするための応答ファイルを作成します。

1. Replication Agent のインスタンスを起動、停止、管理する権限のあるオペレーティング・システム・ユーザ・アカウント (“sybase” ユーザなど) を使用して、Replication Agent ホスト・マシンにログインします。
2. 重要でないアプリケーションをすべて閉じ、開いているウィンドウを最小化します。
3. Replication Agent 15.7.1 メディアを適切なドライブに挿入します。

注意： Microsoft Windows では、インストール・プログラムが自動的に起動したときに、[キャンセル] をクリックします。

4. オペレーティング・システムのコマンド・ウィンドウを開き、メディア・ドライブを現在のドライブとして設定します。
5. コマンド・プロンプトで、次のように **-r** オプションを使用してインストール・プログラム・ウィザードを起動します。

GUI	• Microsoft Windows の場合：
	`setup.exe -r responseFileName`
	responseFileName は、作成する応答ファイルのフル・パスです (`C:¥RAX¥ResponseFile.txt` など)。
	• UNIX の場合：
	`./setup.bin -r responseFileName`
	responseFileName は、作成する応答ファイルのフル・パスです (`/home/sybase/RAX/ResponseFile.txt` など)。

コンソール	• Microsoft Windows の場合：
	`setupConsole.exe -r responseFileName -i console`
	responseFileName は、作成する応答ファイルのフル・パスです (`C:¥RAX¥ResponseFile.txt` など)。
	• UNIX の場合：
	`./setup.bin -r responseFileName -i console`
	responseFileName は、作成する応答ファイルのフル・パスです (`/home/sybase/RAX/ResponseFile.txt` など)。

インストール・プログラムが選択されたモードで起動し、指定した名前のファイルに記録されているプロンプト応答をすべて取り込みます。

インストール・エラーが発生した場合は、インストール・プログラム・ウィザードを終了してエラーの原因を修正してから、インストール・プログラムを再起動してください。

応答ファイルを使用したコンソール・モードによる Replication Agent のインストール

作成した応答ファイルを使用して、Replication Agent の対話型インストールを実行します。

応答ファイルを使用したコンソール・モードのインストールでは、インストール過程で応答ファイルが提供するデフォルト値を承認または変更できます。

次のコマンド・プロンプトでインストール・プログラムを起動します。

- Microsoft Windows の場合：

  ```
  setupConsole.exe -f responseFileName -i console
  ```

  responseFileName は、応答ファイルのフル・パスです (`C:¥RAX¥ResponseFile.txt` など)。
- UNIX の場合：

  ```
  ./setup.bin -f responseFileName -i console
  ```

  responseFileName は、応答ファイルのフル・パスです (`/home/sybase/RAX/ResponseFile.txt` など)。

ウィザードのすべてのプロンプトの説明は、「GUI ウィザードによる Replication Agent のインストール」を参照してください。

インストール・エラーが発生した場合は、インストール・プログラム・ウィザードを終了してエラーの原因を修正してから、インストール・プログラムを再起動してください。

ソフトウェアのコンポーネントが正しくインストールされたことを確認するには、「インストールの確認」を参照してください。

応答ファイルを使用したサイレント・モードによる Replication Agent のインストール

作成した応答ファイルを使用して、Replication Agent のサイレント・インストールを実行します。

インストール・プログラムのサイレント・モード (無人インストールとも呼ばれます) では、ユーザの操作を必要とせず、デフォルト値を設定した応答ファイルを使用してソフトウェアをインストールできます。

次のコマンド・プロンプトからインストール・プログラムを起動します。

- Microsoft Windows の場合：

```
setupConsole.exe -f responseFileName -i silent
   -DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

  responseFileName は、応答ファイルのフル・パスです (`C:¥RAX¥ResponseFile.txt` など)。

  警告！ フォアグラウンドで実行する `setupConsole.exe` の使用をおすすめします。`setup.exe` はバックグラウンドで実行されるため、インストールが完了ステータスなしに即時終了したような誤った印象を与えます。そのため、インストールが重複して実行される可能性があります。

- UNIX の場合：

```
./setup.bin -f responseFileName -i silent
   -DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

  responseFileName は、応答ファイルのフル・パスです (`/home/sybase/RAX/ResponseFile.txt` など)。

ソフトウェアのコンポーネントが正しくインストールされたことを確認するには、「インストールの確認」を参照してください。

インストール後の作業

Replication Agent を正しくインストールした後、次のインストール後の作業を実行します。

- SYBASE 環境変数の設定
- インストールの確認

SYBASE 環境変数の設定

Replication Agent をインストールした後、Replication Agent のユーティリティを実行する前に、Replication Agent ホスト・マシンで SYBASE 環境変数を設定します。

%SYBASE% (Microsoft Windows の場合) または **$SYBASE** (UNIX の場合) の値を Replication Agent のインストール・ディレクトリに設定します。

1. Replication Agent のインスタンスを起動、停止、管理する権限のあるオペレーティング・システム・ユーザ・アカウント (“sybase” ユーザなど) を使用して、Replication Agent ホスト・マシンにログインします。
2. コマンド・プロンプトで、`SYBASE` バッチまたはスクリプト・ファイルを実行します。
   - Microsoft Windows の場合：

```
c:¥path¥SYBASE.bat
```

path は Sybase インストール・ディレクトリです (

```
c:¥sybase¥SYBASE
```

など)。

- UNIX の場合：

```
source path/SYBASE.csh
```

path は Replication Agent インストール・ディレクトリです。

インストールの確認

サブディレクトリと環境スクリプトの作成を確認して、インストールに成功したことを確かめます。

Replication Agent のインストールに成功すると、Replication Agent のインストール・ディレクトリ (Microsoft Windows プラットフォームの場合は *%SYBASE%*、UNIX プラットフォームの場合は *$SYBASE*) にサブディレクトリが表示されます。また、Replication Agent が必要とするその他のソフトウェアも表示されます。

SYBASE 環境スクリプト

インストール・プログラムは、PATH やその他の環境変数を Replication Agent ホスト・マシンに設定する SYBASE 環境スクリプトも作成します。これらのスクリプトを使用すると、ホスト・マシンのどのディレクトリからでも Replication Agent ソフトウェアやそのユーティリティを実行できます。

Sybase のインストール・ディレクトリに、次に示す名前の SYBASE 環境スクリプトが作成されます。

- Microsoft Windows プラットフォームの場合：`SYBASE.bat`
- UNIX プラットフォームの場合：`SYBASE.sh` または `SYBASE.csh`

これらのスクリプトを使用して、環境変数を永続的に設定したり、Replication Agent ホスト・マシンにログインするたびにスクリプトを (source コマンドで) 実行して一時的に環境変数を変更したりできます。

追加作業

インストール後の作業を実行して、Replication Agent の複写の準備を行います。

Replication Agent をインストールした後、トランザクションを複写するプライマリ・データベースのそれぞれに Replication Agent のインスタンスを 1 つ作成します。Replication Agent のインスタンスの作成と、Sybase Replication Agent システムの設定については、『Replication Agent 管理ガイド』を参照してください。

Replication Agent をアップグレードまたはダウングレードする場合、データベースに固有の詳細については、『Replication Agent プライマリ・データベース・ガイド』を参照してください。

アンインストール

Replication Agent とその関連コンポーネントを削除するには、アンインストール・ウィザードを使用します。

アンインストール・ウィザードは GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードで実行できますが、GUI モードを使用することをおすすめします。

注意： アンインストーラでは、インストール・メディアからロードされたファイルのみが削除されます。ログ・ファイルや設定ファイルなどの一部の Sybase ファイルは、管理上の目的で元のまま残されます。`jre` およびその他のインストールされたディレクトリも削除されません。これらのディレクトリは手動で削除する必要があります。

アンインストールを実行する前に、次の点を考慮する必要があります。

- 同じインストール技術 (InstallAnywhere や InstallShield Multiplatform インストーラ) を使用して複数の Sybase 製品がインストールされている場合、製品の共有コンポーネントは、すべての Sybase 製品をアンインストールするまで削除されません。ただし、異なるインストール技術を使用して同じディレクトリにインストールされている Sybase 製品の場合は、同じ名前のファイルが削除されたり、上書きされたりすることがあります。そのため、同じインストール技術と共有インストール・ディレクトリを使用してインストールまたはアンインストールすることをおすすめします。

  警告！ InstallAnywhere 以外のインストール・プログラムを使用して他の Sybase 製品がインストールされているディレクトリに Replication Agent をインストールした場合は、Replication Agent やその他の Sybase 製品をアンインストールしないでください。アンインストールを実行すると、Sybase 製品で共有されているコンポーネントが削除され、それらの動作に影響を与える可能性があります。

- アンインストール・プログラムは、アンインストール・ウィザードで選択した製品と機能のファイルとディレクトリのみを削除します。ただし、ログ・ファイルや設定ファイルなどの一部のファイルは、製品と機能のすべてをアンインストールした場合でも、管理上の目的で元のまま残っています。

  注意： ルート・インストール・ディレクトリ (*%SYBASE%* または *$SYBASE*) または `SYSAM-2_0` ディレクトリとそのサブディレクトリは削除されません。

Microsoft Windows プラットフォームでのアンインストール

Replication Agent は GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードでアンインストールできます。

Replication Agent ソフトウェアをアンインストールする前に、次の操作を行ってください。

- 管理者権限のあるアカウントを使用して Replication Agent ホスト・マシンにログインします。
- Replication Agent のすべてのインスタンスと、アンインストールするコンポーネントのその他のプロセスをすべて停止します。

Microsoft Windows プラットフォームでの GUI モードを使用したアンインストール

Replication Agent を GUI モードでアンインストールします。

1. 次のいずれかの方法を使用して、アンインストール・プログラムを GUI モードで起動します。
   - [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] を選択します。
   - コマンド・プロンプトで次のように入力します。
     ```
     %SYBASE%¥sybuninstall¥RAX¥uninstall.exe
     ```
   - [スタート] > [ファイル名を指定して実行] をクリックし、次のように入力します。
     ```
     %SYBASE%¥sybuninstall¥RAX¥uninstall.exe
     ```
   - Microsoft Windows エクスプローラで、`uninstall.exe` ファイルのアイコンをダブルクリックします。
2. [次へ] をクリックします。
3. [Pre-Uninstall Summary] ウィンドウに表示された概要を確認します。[次へ] をクリックします。

   選択した製品と機能に関連付けられたファイルとディレクトリのみが削除されます。
4. [完了] をクリックします。

注意： 共有ファイルは削除しないことをおすすめします。

Microsoft Windows プラットフォームでのコンソール・モードを使用したアンインストール

Replication Agent をコンソール・モードでアンインストールします。

1. オペレーティング・システムのコマンド・ウィンドウを開きます。
2. Sybase インストール・ディレクトリを現在のディレクトリとして設定します。

   ```
   cd %SYBASE%
   ```

   %SYBASE% は Replication Agent インストール・ディレクトリのパスです。
3. コマンド・プロンプトでアンインストール・プログラムを起動します。

   ```
   sybuninstall¥RAX¥uninstall.exe -i console
   ```
4. ウィザードの説明に従って Replication Agent ソフトウェアをアンインストールします。

注意： 共有ファイルは削除*しない*ことをおすすめします。

Microsoft Windows プラットフォームでのサイレント・モードを使用したアンインストール

サイレント・モードで Replication Agent をアンインストールします。

1. オペレーティング・システムのコマンド・ウィンドウを開きます。
2. Sybase インストール・ディレクトリを現在のディレクトリとして設定します。

   ```
   cd %SYBASE%
   ```

   %SYBASE% は Replication Agent インストール・ディレクトリのパスです。
3. コマンド・プロンプトでアンインストール・プログラムを起動します。

   ```
   sybuninstall¥RAX¥uninstall.exe -i silent
   ```

UNIX プラットフォームでのアンインストール

Replication Agent は GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードでアンインストールできます。

Replication Agent ソフトウェアをアンインストールする前に、次の操作を行ってください。

- 管理者権限のあるアカウントを使用して Replication Agent ホスト・マシンにログインします。
- Replication Agent のすべてのインスタンスと、アンインストールするコンポーネントのその他のプロセスをすべて停止します。

UNIX プラットフォームでの GUI モードを使用したアンインストール

Replication Agent を GUI モードでアンインストールします。

1. コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
$SYBASE/sybuninstall/RAX/uninstall
```

   $SYBASE は Replication Agent インストール・ディレクトリのパスです。
2. [次へ] をクリックします。
3. [Pre-Uninstall Summary] ウィンドウに表示された概要を確認します。[次へ] をクリックします。

   選択した製品と機能に関連付けられたファイルとディレクトリのみが削除されます。
4. [完了] をクリックします。

注意： 共有ファイルは削除しないことをおすすめします。

UNIX プラットフォームでのコンソール・モードを使用したアンインストール

Replication Agent をコンソール・モードでアンインストールします。

1. オペレーティング・システムのコマンド・ウィンドウを開きます。
2. Sybase インストール・ディレクトリを現在のディレクトリとして設定します。

```
cd $SYBASE
```

   $SYBASE は Replication Agent インストール・ディレクトリのパスです。
3. コマンド・プロンプトでアンインストール・プログラムを起動します。

```
sybuninstall/RAX/uninstall -i console
```

4. ウィザードの説明に従って Replication Agent ソフトウェアをアンインストールします。

注意： 共有ファイルは削除*しない*ことをおすすめします。

UNIX プラットフォームでのサイレント・モードを使用したアンインストール

サイレント・モードで Replication Agent をアンインストールします。

1. オペレーティング・システムのコマンド・ウィンドウを開きます。
2. Sybase インストール・ディレクトリを現在のディレクトリとして設定します。

   ```
   cd $SYBASE
   ```

   $SYBASE は Replication Agent インストール・ディレクトリのパスです。
3. コマンド・プロンプトでアンインストール・プログラムを起動します。

   ```
   sybuninstall/RAX/uninstall -i silent
   ```

追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、製品マニュアル Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- Sybase 製品マニュアル Web サイト (http://sybooks.sybase.com/) にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。この Web サイトには、製品マニュアルの他に、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Community Forums/Newsgroups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF 形式のドキュメントを表示または印刷するには、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできる Adobe Acrobat Reader が必要です。

注意： 製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアル Web サイトから入手できることがあります。

サポート・センタ

Sybase 製品に関するサポートを得ることができます。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

EBF と Maintenance レポートは、Sybase Web サイトからダウンロードしてください。

1. Web ブラウザで http://www.sybase.com/support を指定します。
2. メニュー・バーまたはスライド式メニューの [Support (サポート)] で [EBFs/Maintenance (EBF/メンテナンス)] を選択します。
3. ユーザ名とパスワードの入力が 求められたら、MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
4. (オプション) [Display (表示)] ドロップダウン・リストからフィルタを指定し、期間を指定して、[Go (実行)] をクリックします。
5. 製品を選択します。

   鍵のアイコンは、「Authorized Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースを ダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、[My Account (マイ・アカウント)] をクリックして、「Technical Support Contact」役割を MySybase プロファイルに追加します。
6. EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。

Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、http://www.sybase.com/detail_list?id=9784 にアクセスします。

- プラットフォームの動作確認については、http://certification.sybase.com/ucr/search.do にアクセスします。

MySybase プロファイルの作成

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用にカスタマイズできます。

1. http://www.sybase.com/mysybase を開きます。
2. [Register Now (今すぐ登録)] をクリックします。

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

注意： アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれません。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、Sybase Accessibility サイト (http://www.sybase.com/products/accessibility) を参照してください。このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。

用語解説

この用語解説では Replication Server Options で使用されている用語について説明します。

- **Adaptive Server** – Sybase リレーショナル・データベース管理システム (RDBMS) ソフトウェア製品のブランド名。
  - Adaptive Server Enterprise は、高容量オンライン・トランザクション処理 (OLTP: Online Transaction Processing) システムとクライアント・アプリケーション向けの大規模なリレーショナル・データベースを複数管理します。
  - Sybase®IQ は、特殊なインデックス・アルゴリズムで大規模なリレーショナル・データベースを複数管理して、高速、高容量のビジネス・インテリジェンス、意思決定サポート、レポート・クライアント・アプリケーションなどをサポートします。
  - SQL Anywhere® (旧称 Adaptive Server Anywhere) は、埋め込みアプリケーションやモバイル・デバイス・アプリケーションに最適な小型 DBMS によってリレーショナル・データベースを管理します。

  *「DBMS」*と*「RDBMS」*参照。
- **アトミック・マテリアライゼーション** – マテリアライゼーション・メソッドの 1 つで、サブスクリプション・データをプライマリ・データベースからレプリケート・データベースに 1 回のアトミック・オペレーションでコピーします。プライマリ・データベースでサブスクリプション・データが取り込まれるまで、プライマリ・データの変更はできません。*「バルク・マテリアライゼーション」*と*「ノンアトミック・マテリアライゼーション」*参照。
- **BCP ユーティリティ** – ターゲット・データベースのテーブルに複数ローのデータをロードできるバルク・コピー転送ユーティリティ。*「バルク・コピー」*参照。
- **バルク・コピー** – データベース・テーブルとプログラム変数との間の高速データ転送に使用される Open Client™ インタフェース。バルク・コピーは、SQL **insert** コマンドと **select** コマンドを使用するデータ転送の代替となります。
- **バルク・マテリアライゼーション** – マテリアライゼーション・メソッドの 1 つで、レプリケート・データベースのサブスクリプション・データを複写システム外で初期化します。バルク・マテリアライゼーションは、テーブル複写定義とファンクション複写定義のどちらのサブスクリプションにも使用できます。*「アトミック・マテリアライゼーション」*と*「ノンアトミック・マテリアライゼーション」*参照。
- **クライアント** – クライアント／サーバ・システムでは、サーバに要求を送信して、その結果を処理する部分。*「クライアント・アプリケーション」*参照。

- **クライアント・アプリケーション** – メニュー、データ入力画面、レポート形式などのユーザ・インタフェースを制御するソフトウェア。*「クライアント」*参照。
- **コミット** – トランザクションで要求された変更を永続化する DBMS への命令。*「トランザクション」*参照。*「ロールバック」*と対比。
- **データベース** – ユーザのためにデータの受け入れ、格納、提供などを行う特定の構造 (スキーマ) を備えたデータの集まり。*「データ・サーバ」*、*「DBMS」*、*「RDBMS」*参照。
- **データベース・コネクション** – Replication Server がデータベースを管理し、トランザクションをデータベースに分配するためのコネクション。複写システム内の各データベースに接続できるデータベース・コネクションは Replication Server で 1 つだけです。*「Replication Server」*と*「ルート」*参照。
- **データ・クライアント** – データ・サーバに接続してデータへのアクセスを提供するクライアント・アプリケーション。*「クライアント」*、*「クライアント・アプリケーション」*、*「データ・サーバ」*参照。
- **データの分配** – 1 つのデータ・セットの個々の部分を複数のシステムまたは複数のサイトに配置する方法。データ複写システムをデータ分散の実装やサポートに使用することもできますが、データの分配はデータの複写とは異なります。*「データの複写」*と対比。
- **データの複写** – プライマリ・データをリモート・ロケーションにコピーし、コピーされたデータをプライマリ・データに同期するプロセス。データの複写はデータの分配とは異なります。複写データはリモート・サイトのシステム全体で保管されているデータのコピーで、必ずしも分配されたデータであるとは限りません。*「データの分配」*と対比。*「トランザクションの複写」*参照。
- **データ・サーバ** – データベース内のテーブルの物理表現を管理するのに必要な機能を提供するサーバ。通常、データ・サーバとデータベース・サーバは同じですが、データ・クライアントに必要なインタフェースと機能を備えたデータ・レポジトリの場合もあります。*「クライアント」*、*「クライアント・アプリケーション」*、*「データ・クライアント」*参照。
- **データ型** – コンピュータに保存されている情報の特性を識別するキーワード。一般的なデータ型は次のとおりです。*char*、*int*、*smallint*、*date*、*time*、*numeric*、*float*。データ・サーバによって、サポートしているデータ型が異なります。
- **DBMS** – データベース管理システム (Database Management System) の略語。データベースを定義、作成、操作、制御、管理、使用するためのコンピュータベースのシステム。DBMS は、データベースを使用するためのユーザ・インタフェースを含む場合や、スタンドアロンのデータ・サーバ・システムである場合があります。*「RDBMS」*と対比。

- **ERSSD –** Embedded Replication Server システム・データベース (Embedded Replication Server System Database) の略語。Replication Server の複写システム情報を管理します。*「Replication Server」*参照。
- **フェールバック –** フェールオーバ手続きによってプライマリ・データベースからレプリケート・データベースにアクセスが切り替わった後で、ユーザとクライアントが正常にプライマリ・データベースにアクセスできるようにリストアする手順。*「フェールオーバ」*参照。
- **フェールオーバ –** プライマリ・データベースでの操作やプライマリ・データベースへのアクセスが中断するようなエラーが発生した場合に、ユーザとクライアントのアクセスをプライマリ・データベースからレプリケート・データベースに切り替える手続き。フェールオーバは、高可用性を必要とするシステムにとって重要なフォールト・トレランス機能です。*「フェールバック」*参照。
- **ファンクション –** 1 つまたは一連のオペレーションを表すデータ・サーバ・オブジェクト。Replication Server は、これらのオペレーションをファンクションとしてレプリケート・データベースに配信します。*「ストアド・プロシージャ」*参照。
- **ファンクション文字列 –** ファンクションとそのパラメータをデータ・サーバの API にマップするときに Replication Server が使用する文字列。ファンクション文字列を使用すると、プライマリ・データベースとレプリケート・データベースの種類、SQL 拡張機能、コマンド機能などが異なる異機種間の複写を Replication Server がサポートできるようになります。*「ファンクション」*参照。
- **ゲートウェイ –** ネットワーク・アーキテクチャが異なる複数のコンピュータ・システム間の通信を可能にする接続ソフトウェア。
- **インバウンド・キュー –** Replication Agent から受け取ったメッセージをスプールするために Replication Server が管理するステーブル・キュー。*「アウトバウンド・キュー」*と*「ステーブル・キュー」*参照。
- **interfaces ファイル –** Sybase Open Client/Open Server™ アプリケーションが他の Open Client/Open Server アプリケーションと接続を確立するために必要な情報が含まれたファイル。*「Open Client」*と*「Open Server」*参照。
- **isql –** Sybase Open Server アプリケーション (Adaptive Server、Replication Agent、Replication Server など) に接続して通信できる Interactive SQL クライアント・アプリケーション。*「Open Client」*と*「Open Server」*参照。
- **Java –** Sun Microsystems が開発したオブジェクト指向プログラミング言語。プラットフォームに依存しない “write once, run anywhere (一度書けばどこでも動く)” プログラミング言語。
- **Java VM –** Java 仮想マシン。Java VM (または JVM) は、Java バイト・コードの解釈を実行する Java ランタイム環境 (JRE) の一部です。*「Java」*と*「JRE」*参照。

- **JDBC –** Java データベース・コネクティビティ (Java Database Connectivity) の略語。JDBC は Java クライアントとデータ・サーバを接続するための標準通信プロトコルです。*「データ・サーバ」*と*「Java」*参照。
- **JRE –** Java ランタイム環境 (Java Runtime Environment) の略語。JRE は Java 仮想マシン (Java VM または JVM)、Java コア・クラス、サポート・ファイルで構成されています。Replication Agent などの Java アプリケーションを実行するには、マシンに JRE がインストールされている必要があります。*「Java VM」*参照。
- **LAN –** ローカル・エリア・ネットワーク (Local Area Network) の略語。ユーザの構内にあり、限定された地域 (通常は 1 サイト) をカバーするコンピュータ・ネットワーク。ローカル・エリア・ネットワーク内の通信は外部規制を受けませんが、LAN 圏外の通信は一定の規制を受けます。*「WAN」*と対比。
- **遅延時間 –** トランザクションの複写では、プライマリ・データベースからレプリケート・データベースへのトランザクションの複写にかかる時間。厳密に言うと、遅延時間とは、プライマリ・データベースで元のトランザクションをコミットしてから、レプリケート・データベースで複写トランザクションをコミットするまでの経過時間です。

  ディスクの複写では、遅延時間は、プライマリ・デバイスでブロックやページを変更するディスク書き込み処理から、レプリケート・デバイスで複写されたブロックやページを変更するディスク書き込み処理までの経過時間です。

  *「トランザクションの複写」*参照。
- **LOB –** ラージ・オブジェクト (Large Object) の略語。データベースに 1 つのエンティティとして格納されている大きいデータ・コレクション。
- **Log Reader –** プライマリ・データベースと対話して複写のためのトランザクションを取り込む Replication Agent の内部コンポーネント。*「Log Transfer Interface」*と*「Log Transfer Manager」*参照。
- **Log Transfer Interface (ログ転送インタフェース) –** Replication Server に配信するトランザクションを転送するために Replication Server と対話する Replication Agent の内部コンポーネント。*「Log Reader」*と*「Log Transfer Manager」*参照。
- **Log Transfer Language (ログ転送言語) –** プライマリ・データベースから Replication Server にデータを複写するために Replication Agent と Replication Server の間で使用される独自のプロトコル。*「Log Reader」*と*「Log Transfer Interface」*参照。
- **Log Transfer Manager –** Replication Agent のその他の内部コンポーネントと対話して Replication Agent のオペレーションを制御および調整する Replication Agent の内部コンポーネント。*「Log Reader」*と*「Log Transfer Interface」*参照。
- **メンテナンス・ユーザ –** Replication Server がデータベースに複写トランザクションを適用するときに使用するレプリケート・データベースの特別なユーザ・ログイン名。*「レプリケート・データベース」*と*「Replication Server」*参照。

- **マテリアライゼーション** – プライマリ・データベースからレプリケート・データベースにデータをコピーして、複写システムがトランザクションの複写を開始できるようにレプリケート・データベースを初期化するプロセス。*「アトミック・マテリアライゼーション」*、*「バルク・マテリアライゼーション」*、*「ノンアトミック・マテリアライゼーション」*参照。
- **Multi-Path Replication™** – 送信元データベースからターゲット・データベースへのデータの並列パスを有効にすることによってパフォーマンスを向上させる Replication Server の機能。これらの複数のパスではデータが個別に処理され、それらのパス間のトランザクションの一貫性を必要とせずにデータ・セットを並列処理できる場合に適用されます。
- **ノンアトミック・マテリアライゼーション** – マテリアライゼーション・メソッドの 1 つで、プライマリ・データベースをロックせずにサブスクリプション・データをコピーします。データの転送中もプライマリ・データを変更できるので、プライマリ・データベースとレプリケート・データベース間で一時的に不一致が生じる場合があります。*「アトミック・マテリアライゼーション」*と対比。*「バルク・マテリアライゼーション」*参照。
- **ODBC** – Open Database Connectivity の略語。クライアントがデータ・サーバに接続するための業界標準通信プロトコル。*「クライアント」*、*「データ・サーバ」*、*「JDBC」*参照。
- **Open Client** – カスタマ・アプリケーション、サードパーティ製品、他の Sybase 製品が Open Server アプリケーションと通信するために必要なインタフェースを提供する Sybase 製品。*「Open Server」*参照。
- **Open Client アプリケーション** – Sybase Open Client ライブラリを使用して Open Client 通信プロトコルを実装するアプリケーション。*「Open Client」*と*「Open Server」*参照。
- **Open Server** – カスタム・サーバの作成に必要なツールとインタフェースを提供する Sybase 製品。*「Open Client」*参照。
- **Open Server アプリケーション** – Sybase Open Server ライブラリを使用して Open Server 通信プロトコルを実装するサーバ・アプリケーション。*「Open Client」*と*「Open Server」*参照。
- **アウトバウンド・キュー** – レプリケート・データベースにメッセージをスプールするために Replication Server が管理するステーブル・キュー。*「インバウンド・キュー」*、*「レプリケート・データベース」*、*「ステーブル・キュー」*参照。
- **プライマリ・データ** – 複写に使用されるデータ・ソース。プライマリ・データはプライマリ・データベースによって保存および管理されます。*「プライマリ・データベース」*参照。
- **プライマリ・データベース** – 複写システムを使用して別のデータベース (レプリケート・データベース) に複写するデータが格納されているデータベース。複写システムではプライマリ・データベースが複写データのソースです。アク

ティブ・データベースと呼ばれることもあります。*「レプリケート・データベース」*と対比。*「プライマリ・データ」*参照。

- **プライマリ・キー** – テーブル内の各ローをユニークに識別するカラムまたはカラムのセット。
- **プライマリ・サイト** – 通常の業務処理をサポートするためにプライマリ・データ・サーバとプライマリ・データベースが配備されている場所または施設。アクティブ・サイトまたはメイン・サイトと呼ばれることもあります。*「プライマリ・データベース」*と*「レプリケート・サイト」*参照。
- **プライマリ・テーブル** – 複写のソースとして使用されるテーブル。プライマリ・テーブルはプライマリ・データベース・スキーマで定義されます。*「プライマリ・データ」*と*「プライマリ・データベース」*参照。
- **プライマリ・トランザクション** – プライマリ・データベースでコミットされ、プライマリ・データベースのトランザクション・ログに記録されたトランザクション。*「プライマリ・データベース」*、*「複写トランザクション」*、*「トランザクション・ログ」*参照。
- **クワイス** – システムを、これ以上データ変更ができない状態に切り替えること。*「クワイス状態」*参照。
- **クワイス状態** – 複写システムでは、すべての更新がその送信先に反映された状態。Replication Agent と Replication Server の一部のコマンドでは、最初に複写システムをクワイスする必要があります。

  データベースでは、トランザクションがデータを変更できないようにデータの更新がすべて停止し、データ・デバイスとログ・デバイスが静止している状態。

  この用語は「クワイスされている」または「クワイス」と同義です。*「クワイス」*参照。
- **RASD** – Replication Agent システム・データベース (Replication Agent System Database) の略語。RASD 内の情報は、トランザクション・ログでデータベース構造やスキーマ・オブジェクトを認識するためにプライマリ・データベースによって使用されます。
- **RCL** – 複写コマンド言語 (Replication Command Language) の略語。Replication Server の管理に使用されるコマンド言語。*「Replication Server」*参照。
- **RDBMS** – リレーショナル・データベース管理システム (Relational Database Management System) の略語。リレーショナル・データベースを管理および制御するアプリケーション。*「DBMS」*と対比。*「リレーショナル・データベース」*参照。
- **リレーショナル・データベース** – カラム (データ項目) とロー (情報の単位) から成るテーブルにデータを格納して表示するデータの集まり。リレーショナル・データベースは SQL 要求によってアクセスできます。*「データベース」*と対比。*「SQL」*参照。

- **レプリケート・データ** – 複写システムによってプライマリ・データベースからレプリケート・データベースに複写されたデータ・セット。*「プライマリ・データベース」*、*「複写システム」*、*「レプリケート・データベース」*参照。
- **レプリケート・データベース** – 複写システムによって別のデータベース (プライマリ・データベース) から複写されたデータが格納されているデータベース。レプリケート・データベースは複写システムで複写されたデータを受け取るデータベースです。*「プライマリ・データベース」*と対比。*「レプリケート・データ」*、*「複写トランザクション」*、*「複写システム」*参照。
- **複写トランザクション** – トランザクション複写システムによってプライマリ・データベースからレプリケート・データベースに複写されたプライマリ・トランザクション。*「プライマリ・データベース」*、*「プライマリ・トランザクション」*、*「レプリケート・データベース」*、*「トランザクション複写」*参照。
- **レプリケート・サイト** – プライマリ・サイトでのスケジュールされているダウン時間中の通常の業務処理をサポートするためにレプリケート・データ・サーバとレプリケート・データベースが配備されている場所または施設。*「プライマリ・サイト」*と対比。*「レプリケート・データベース」*参照。
- **Replication Agent** – プライマリ・データベース・トランザクションのログを読み取ってプライマリ・データベースのデータ変更トランザクションに関する情報を取得し、ログ情報を処理してから、それをレプリケート・データベースに分配する目的で Replication Server に送信するアプリケーション。*「プライマリ・データベース」*と*「Replication Server」*参照。
- **複写定義** – サブスクリプションを作成できるプライマリ・データベースのテーブルまたはストアド・プロシージャの記述。Replication Server によって管理される複写定義には、複写されるカラムとプライマリ・テーブルまたはストアド・プロシージャの場所に関する情報が含まれています。*「Replication Server」*と*「サブスクリプション」*参照。
- **Replication Server** – トランザクション複写システムのインフラストラクチャを提供する Sybase ソフトウェア製品。*「Replication Agent」*参照。
- **複写システム** – データを別の場所に複写するデータ処理システム。データは 1 つのサイトの異なるシステム間、またはローカル・システムとリモート・システム間で複写できます。*「トランザクションの複写」*参照。
- **ロールバック** – 作業単位 (すなわちトランザクション) で要求された変更を取り消すデータベースへの命令。*「コミット」*と対比。*「トランザクション」*参照。
- **ルート** – プライマリ Replication Server からレプリケート Replication Server への一方向のメッセージ・ストリーム。ルートは、データ変更コマンド (RSSD のコマンドも含む) と、Replication Server 間で複写されたファンクション (データベース・プロシージャ) を転送します。*「Replication Server」*参照。

- **RSSD –** Replication Server システム・データベース (Replication Server System Database) の略語。Replication Server の複写システム情報を管理します。*「Replication Server」*参照。
- **SQL –** 構造化問合せ言語 (Structured Query Language) の略語。リレーショナル・データベースのデータ処理に使用される非手続き型プログラミング言語。ANSI SQL は業界標準の 1 つです。*「トランザクション」*参照。
- **ステーブル・キュー –** Replication Server が管理するディスク・デバイスベースの蓄積転送キュー。ステーブル・キューに書き込まれたメッセージは、適切なプロセスまたはレプリケート・データベースに配信できる時まで、このキューに格納されます。Replication Server は受信メッセージ (インバウンド・キュー) と送信メッセージ (アウトバウンド・キュー) の両方にステーブル・キューを提供します。*「データベース・コネクション」*、*「Replication Server」*、*「ルート」*参照。
- **ストアド・プロシージャ –** 1 つまたは一連のオペレーションを表すデータ・サーバ・オブジェクト。この用語は、*「ファンクション」*と同じ意味で使用される場合があります。
- **サブスクリプション –** 指定した場所のレプリケート・データベース内のテーブルの複写コピーやテーブルのローを Replication Server に管理させる要求。*「レプリケート・データベース」*、*「複写定義」*、*「Replication Server」*参照。
- **テーブル –** リレーショナル DBMS では、テーブルに固有のカラム・グループから成る順不同のローが特定数含まれている、2 次元のデータ配列または名前付きデータ・オブジェクト。*「データベース」*参照。
- **トランザクション –** データベースの作業単位。0、1、または多数のオペレーション (**insert**、**update**、**delete** など) を含むことができ、全体として適用または拒否されます。データベースの設定によっては、データを変更する各 SQL ステートメントを別々のトランザクションとして処理できます。*「SQL」*参照。
- **トランザクションの一貫性 –** プライマリ・データベースのすべてのトランザクションが、プライマリ・データベースと同じ順序でレプリケート・データベースに適用される状態。
- **トランザクション・ログ –** 通常は、データ・サーバが管理しているデータに影響するトランザクションのログ。Replication Agent はトランザクション・ログを読み取って、複写するトランザクションを識別し、プライマリ・データベースから取得します。*「Replication Agent」*、*「プライマリ・データベース」*、*「Replication Server」*参照。
- **トランザクションの複写 –** データ複写方式の 1 つで、データ変更オペレーションをプライマリ・データベースからレプリケート・データベースにコピーします。*「データの複写」*参照。
- **UDB –** IBM DB2 Universal Database (旧称 IBM DB2 for Linux, UNIX, and Windows)

- **WAN –** 広域ネットワーク (Wide Area Network) の略語。ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) をデータ通信回線で接続しているシステム。「*LAN*」と対比。

索引

A

admin_port パラメータ 29
admin_pw パラメータ 30
admin_user パラメータ 30
asm_password パラメータ 36
asm_tns_connection パラメータ 35
asm_tns_filename パラメータ 35
asm_username パラメータ 35

C

CLASSPATH 環境変数 13
create connection コマンド、Replication Server 22

D

DB2 Universal Database
    JDBC ドライバ 13
    ODBC ドライバ 27
    Replication Agent インスタンスの種類 21
    データ・ソース名 27
    データベース・エイリアス 27
ddl_password パラメータ 38
ddl_username パラメータ 38
DSN
    次を参照： データ・ソース名

G

GUI
    ウィザードのインストール 41
    要件 18

I

Informix
    データベース・サーバ名 26
interfaces ファイル 22

J

JDBC ドライバ
    DB2 Universal Database 13
    Microsoft SQL Server 14
    Oracle 14
    要件 12
    設定 12
JRE
    要件 15

M

Microsoft SQL Server
    Replication Agent インスタンスの種類 21

O

ODBC ドライバ
    データ・ソース名 (DSN) 27
Oracle
    JDBC ドライバ 14
    ORACLE_SID 環境変数 27
    Replication Agent インスタンスの種類 21

P

pds_dac_port_number パラメータ 37
pds_database_name パラメータ 27
pds_datasource_name パラメータ 27, 36
pds_host_name パラメータ 26
pds_password パラメータ 27, 37
pds_port_number パラメータ 26, 36
pds_server_name パラメータ 26, 36
pds_tns_connection パラメータ 34
pds_tns_filename パラメータ 34
pds_username パラメータ 27, 37

R

ra_config コマンド 23
RASD
    ディスク領域の要件 18
rds_host パラメータ 37
Real-Time Loading Edition
    ライセンス 8

replicate_db パラメータ 38
Replication Agent
　Replication Server クライアント・ユーザ ID 24
　Replication Server パラメータ 23
　RSSD クライアント・ユーザ ID 25
　RSSD パラメータ 25
　インスタンスの種類 21
　インスタンス名 21
　インストール・ワークシート 29
　管理ポート 22
　管理ログイン 22
　プライマリ・データベース・クライアントのユーザ ID 27
　プライマリ・データベース・パラメータ 26
　管理情報 21
Replication Agent 15.7.1 インストール・ディレクトリ 19
Replication Server
　create connection コマンド 22
　Replication Agent のログイン 24
　クライアント・ポート 24
　クライアント・ユーザ ID 24
　プライマリ・データベースのパラメータ 22
　ホスト・マシン名 23
　メンテナンス・ユーザ ID 23
　レプリケート・データベース・パラメータ 28
Replication Server Heterogeneous Edition
　ライセンス 8
Replication Server Options
　ライセンス 6
rs_charset パラメータ 33
rs_host_name パラメータ 24, 32
rs_password パラメータ 24, 32
rs_port_number パラメータ 32
rs_source_db パラメータ 27, 31
rs_source_ds パラメータ 31
rs_username パラメータ 24, 32
RSSD
　Replication Agent のログイン 25
　Replication Agent パラメータ 25
　クライアント・ポート 25
　データベース名 25
　ホスト・マシン名 25
rssd_database_name パラメータ 25
rssd_host_name パラメータ 25, 33
rssd_password パラメータ 25, 34
rssd_port_number パラメータ 25, 34
rssd_username パラメータ 25, 34

S

SySAM
　FLEXnet Publisher 8
　サブキャパシティ・ライセンス 8, 10
　ライセンス・サーバ・バージョン 8
SySAM サブキャパシティ 10
SySAM ライセンス・サーバ 8
SySAM ライセンス・モデル 6
sysamcap ユーティリティ 6

V

Visual C++ 2005 19

あ

アンインストール
　コマンド・ライン・オプション 39

い

インスタンス
　種類 21
　名前 21
インストール
　GUI ウィザードの手順 39
　アンインストール手順 50
　エラー情報 40
　コンソール・モードの手順 44
　サイレント・モードの手順 47
　デバッグ情報 40
　リモート・マシンからのインストール 18
　ワークシート 29
　ワークシートの手順 21
　応答ファイル 45
　確認 49

作成されたディレクトリ 49
インストール応答ファイルの作成 45
インストール後の作業 48
インストールによって作成されるディレクトリ 49
インストールの確認 49
インストール・プログラム
GUI インストール・ウィザード 41
アンインストール・オプション 50
インストール・オプション 39
エラー情報 40
コマンド・ライン・オプション 39
コンソール・モードのインストール・ウィザード 44
サイレント・モード 47
デバッグ情報 40
応答ファイル 45

え

エラー情報、インストール 40

お

応答ファイル、インストール 45
オペレーティング・システム
要件 16

か

環境変数
CLASSPATH 13
SYBASE 49
管理ポート
クライアント・ソケット・ポート番号 22
管理ログイン 22

こ

互換性
以前の製品バージョン 11
コマンド
create connection、Replication Server 22
ra_config 23
コンソール・モードのインストール 44
応答ファイルの使用 45

さ

サイレント・モード・インストール 47

し

システム稼働条件 11
RASD ディスク領域 18
システム 11
ディスク領域 18
メモリ 18
記憶領域 18
システム稼動条件
計画 11

せ

設定パラメータ
admin_port 29
admin_pw 30
admin_user 30
asm_password 36
asm_tns_connection 35
asm_tns_filename 35
asm_username 35
ddl_password 38
ddl_username 38
pds_dac_port_number 37
pds_database_name 27, 36
pds_datasource_name 27, 36
pds_host_name 26
pds_password 27, 37
pds_port_number 26, 36
pds_server_name 26, 36
pds_tns_connection 34
pds_tns_filename 34
pds_username 27, 37
rds_host 37
replicate_db 38
rs_charset 33
rs_host_name 24, 32
rs_password 24, 32
rs_port_number 32
rs_source_db 27, 31
rs_source_ds 31
rs_username 24, 32
rssd_database_name 25, 34

rssd_host_name 25, 33
rssd_password 25, 34
rssd_port_number 25, 34
rssd_username 25, 34

て

ディスク領域
要件 17
データシート
プライマリ・データベース・パラメータ 26
データ・ソース名 27
データベース
Replication Agent インスタンスの種類 21
RSSD 名 25
プライマリ・データベースの名前 26
レプリケート・データベース・パラメータ 28
レプリケート・データベースの名前 28
互換性のあるバージョン 12
データベース・サーバ
要件 11
デバッグ情報、インストール 40

と

ドライバ
JDBC 12

は

バージョン
サポートされているデータベース 12
パスワード
Replication Agent 管理ログイン 22
Replication Server クライアント・ユーザ 24
RSSD クライアント・ユーザ 25
プライマリ・データベース・クライアントのユーザ 27
メンテナンス・ユーザ 23
パラメータ 34, 36

ふ

ファイル
interfaces 22
インストール・ディレクトリ 49
インストール応答 45
複写システム
コンポーネント 3
設定 3
プライマリ・データベース
Replication Agent のログイン 27
Replication Agent パラメータ 26
クライアント・ポート 26
コネクティビティの設定 12
データベース名 26

へ

変数
CLASSPATH 13
SYBASE 49
環境 49

ほ

ポート番号
Replication Agent 管理ポート 22
Replication Server クライアント・ポート 24
RSSD クライアント・ポート 25
プライマリ・データベース・クライアント・ポート 26
ホスト・マシン
Replication Server 23
RSSD 25
レプリケート・データベース 28

め

メモリ要件 17, 18
メンテナンス・ユーザ ID 23

ゆ

ユーザ ID
Replication Agent 管理ログイン 22
Replication Server クライアント 24
RSSD クライアント 25
プライマリ・データベース・クライアント 27

メンテナンス・ユーザ 23
ユーティリティ
sysamcap 6

よ

要件
JDBC 12
JRE 15
オペレーティング・システム 16
グラフィカル・ユーザ・インタフェース 18
ディスク領域 17
データベース・サーバ 11
メモリ 17

ら

ライセンス
サブキャパシティ 10

り

リモート・インストール 18

れ

レプリケート・データベース 28

わ

ワークシート、インストールおよび設定 29